富堡工業股份有限公司 個體財務報告暨會計師查核報告 民國 102 年及 101 年度

地址: 台北市中正區忠孝東路二段 130 號 2 樓之 3

電話: (02)2356-0429

富堡工業股份有限公司 個體財務報告目錄 民國 102 年及 101 年度

項目	頁 次
一、封面	1
二、目錄	2~3
三、會計師查核報告書	4~5
四、個體資產負債表	6~7
五、個體綜合損益表	8
六、個體權益變動表	9
七、個體現金流量表	10~11
八、個體財務報告附註	12~98
(一)公司沿革	12
(二)通過財務報告之日期及程序	12
(三)新發布及修訂準則及解釋之適用	12~18
(四)重大會計政策之彙總說明	18~30
(五)重大會計判斷、估計及假設不確定性之主要來	₹源 31~32
(六)重要會計項目之說明	33~63
(七)關係人交易	63~65

項	目	頁 次
(八)質押之資產		66
(九)重大或有負債及未認列之	合約承諾	66
(十)重大之災害損失		66
(十一)重大之期後事項		66
(十二)其他		66~67
(十三)附註揭露事項		67~68、 82~85
1.重大交易事項相關資訊		67, 82~83
2.轉投資相關資訊		67、84
3.大陸投資資訊		68、85
(十四)部門資訊		_
(十五)首次採用國際財務報導準	則	68~81
九、重要會計項目明細表		86~98

會計師查核報告書

NO. 15331020A

富堡工業股份有限公司董事會 公鑒:

富堡工業股份有限公司民國 102 年 12 月 31 日、民國 101 年 12 月 31 日及民國 101 年 1 月 1 日之個體資產負債表,暨民國 102 年及 101 年 1 月 1 日至 12 月 31 日之個體綜合損益表 個體權益變動表及個體現金流量表,業經本會計師查核竣事。上開個體財務報告之編製係管理階層之責任,本會計師之責任則為根據查核結果對上開個體財務報告表示意見。列入上開個體財務報告之部分被投資公司,其財務報告未經本會計師查核,而係由其他會計師查核。因此,本會計師對上開個體財務報告所表示之意見中,有關該等被投資公司財務報告所列示之金額及附註十三至十四所揭露之相關資訊,係依據其他會計師之查核報告。民國 102 年及 101 年 12 月 31 日對上述被投資公司認列之長期股權投資分別為 134,694 仟元及 136,456 仟元,分別佔資產總額之 15.48%及 15.73%,民國 102 年及 101 年 1 月 1 日至 12 月 31 日其採權益法認列之綜合損益份額分別為 3,686 仟元及 15,317 仟元,分別佔綜合損益總額之 4.81%及 17.28%。

本會計師係依照一般公認審計準則暨「會計師查核簽證財務報表規則」規劃並執行查核工作,以合理確信個體財務報告有無重大不實表達。此項查核工作包括以抽查方式獲取個體財務報告所列金額及所揭露事項之查核證據、評估管理階層編製個體財務報告所採用之會計原則及所作之重大會計估計,暨評估個體財務報告整體之表達。本會計師相信此項查核工作及其他會計師之查核報告可對所表示之意見提供合理之依據。

依本會計師之意見,基於本會計師之查核結果及其他會計師之查核報告,第一段所述之個體財務報告在所有重大方面依照證券發行人財務報告編製準則編製,足以允當表達富堡工業股份有限公司民國 102 年 12 月 31 日、民國 101 年 12 月 31 日及民國 101 年 1 月 1 日之個體資產負債表之個體財務狀況,暨民國 102 年及 101 年 1 月 1 日至 12 月 31 日之個體財務績效及個體現金流量。

富堡工業股份有限公司民國102年度個體財務報告重要會計項目明細表,主要係供補充分析之用,亦經本會計師採用第二段所述之查核程序予以查核。據本會計師之意見,該等明細表在所有重大方面與第一段所述個體財務報表相關資訊一致。

正風聯合會計師事務所

會計師:			
	丁	鴻	勛
會計師:			
	 吳	欣	——— 亮

核准文號: (83)台財證(六)第 0012338 號

核准文號: 金管證六字第 09600000880 號

民 國 103 年 3 月 24 日

富堡工業股份有限公司 個體資產負債表

民國 102 年 12 月 31 日、101 年 12 月 31 日及 101 年 1 月 1 日

單位:新台幣仟元

									Y: 利日节	* 1175	
代碼	資產	附註	102	年12月3	1 日	101	年 12 月 3	1 日	101	年1月1	日 I
I C.Hvið	只 圧	LI1 HT	金	額	%	金	額	%	金	額	%
	流動資產										
1100	現金及約當現金	六(一)	\$	140,927	16	\$	125,429	14	\$	199,068	25
1147	無活絡市場之債券投資一流動	六(二)、八		3,111	1		_	_		5,485	1
1150	應收票據	六(三)		2,657	_		4,235	1		2,930	_
1180	應收帳款一關係人	六(三)、七		135	_		408	_		857	_
1170	應收帳款-非關係人	六(三)		112,682	13		139,312	16		102,435	13
1210	其他應收款-關係人	七		1,321	_		_	_		49	_
1200	其他應收款一非關係人			3,872	1		47,623	5		3,188	_
1220	當期所得稅資產			115	_		_	_		_	_
130X	存 貨	六(四)		78,828	9		79,135	9		71,304	9
1410	預付款項	六(五)		19,157	2		13,803	2		15,311	2
1470	其他流動資產			_	-		_	_		1	_
11XX	流動資產總計			362,805	42		409,945	47		400,628	50
	非流動資產										
1510	透過損益按公允價值衡量之金			_	_		_	_		160	_
	融資產一非流動										
1550	採用權益法之投資	六(六)		306,192	35		247,162	29		185,060	23
1600	不動產、廠房及設備	六(七)、八		181,761	21		193,335	23		206,508	26
1780	無形資產	六(八)		2,573	_		2,994	_		487	_
1840	遞延所得稅資產	六(廿一)		1,207	_		881	_		1,076	_
1915	預付設備款	六(五)		14,074	2		10,274	1		12,205	1
1920	存出保證金			1,736	_		2,585	_		1,869	_
1975	預付退休金-非流動	六(十四)		_	_		301	_		_	_
15XX	非流動資產總計			507,543	58		457,532	53		407,365	50
1XXX	資 產 總 計		\$	870,348	100	\$	867,477	100	\$	807,993	100

(接次頁)

富堡工業股份有限公司 個體資產負債表 (續)

民國 102 年 12 月 31 日、101 年 12 月 31 日及 101 年 1 月 1 日

[承上頁] 單位: 新台幣仟元

	,								, .	立: 利口计	
代碼	自 債 及 權 益	附註	102	年12月3	1 日	101年12月31日			101年1月1		日
1人4時	負 債 及 權 益	門3 前土	金	額	%	金	額	%	金	額	%
	流動負債										
2100	短期借款	六(九)、八	\$	31,777	4	\$ 4	,216	1	\$	6,216	1
2150	應付票據	六(十)		_	_	31	,986	4		29,846	4
2170	應付帳款一非關係人	六(十)		37,432	4	54	,685	6		36,178	4
2180	應付帳款-關係人	六(十)、七		1,680	_		629	_		4,522	1
2219	其他應付款-非關係人	六(十一)		30,272	4	35	,234	4		32,246	4
2220	其他應付款-關係人	六(十一), 七		_	_		_	_		2,940	_
2230	當期所得稅負債			4,906	1	3	,240	_		5,827	1
2250	負債準備一流動	六(十二)		2,405	_		160	_		738	_
2310	預收款項			1,190	_	1	,484	_		2,666	_
2321	一年或一營業週期內到期或執	六(十三)		_	_	94	,501	11		_	_
	行賣回權公司債										
	其他流動負債			267	_		294	_		293	_
21XX	流動負債總計			109,929	13	226	,429	26		121,472	15
	非流動負債										
2530	應付公司債	六(十三)		_	_		_	_		93,063	12
2640	應計退休金負債	六(十四)		508	_		_	_		3,655	_
2571	遞延所得稅負債一土地增值稅			24,200	3	24	,200	3		24,200	3
2572	遞延所得稅負債一所得稅	六(廿一)		26,040	3	16	,085	2		4,820	1
2645	存入保證金			1,598	_	1	,598	_		1,548	_
25XX	非流動負債總計			52,346	6	41	,883	5		127,286	16
2XXX	負債總計			162,275	19	268	3,312	31		248,758	31
	歸屬於本公司業主之權益	六(十五)									
3110	普通股股本			310,594	36	273	,561	32		273,392	34
3200	資本公積			143,148	16	87	,240	10		86,916	11
	保留盈餘										
3310	法定盈餘公積			32,579	4	23	,806	3		16,025	2
3320	特別盈餘公積			38,609	5	38	,609	4		38,609	5
3350	未分配盈餘			169,021	19	162	,966	19		128,343	16
3300	保留盈餘總計			240,209	28	225	,381	26		182,977	23
3410	國外營運機構財務報表換算之			14,122	1	12	2,983	1		15,950	1
	兌換差額										
3XXX	權益總計			708,073	81	599	,165	69		559,235	69
	負債及權益總計		\$	870,348	100	\$ 867	,477	100	\$	807,993	100

後附之附註係本個體財務報告之一部分。

董事長: 林煥強 經理人: 林煥強

會計主管: 葉倚妡

富堡工業股份有限公司

個體綜合損益表

民國 102 年及 101 年 1 月 1 日至 12 月 31 日

單位:新台幣仟元,惟每股盈餘為元

				102 年 月		101 年 度			
代碼		附註	金	額	%	金額	%		
4000	營業收入	六(十七)	\$	722,987	100	\$ 855,257	100		
5000	營業成本	六(四)、(廿二)		(564,573)	(78)	(679,173)	(79)		
5900	營業毛利			158,414	22	176,084	21		
5910	未實現銷貨利益			(1)	_	(336)	_		
5920	已實現銷貨利益			336	_	31	_		
5950	營業毛利淨額			158,749	22	175,779	21		
	營業費用	六(廿二)							
6100	推銷費用			(85,778)	(12)	(90,032)	(11)		
6200	管理費用			(43,434)	(6)	(40,596)	(5)		
6300	研究發展費用			(2,393)		(2,241)	_		
6000	營業費用合計			(131,605)	(18)	(132,869)	(16)		
6900	營業淨利			27,144	4	42,910	5		
	營業外收入及支出								
7010		六(十八)		1,307	_	766	_		
7020	其他利益及損失	六(十九)		9,714	1	228	_		
7050		六(二十)		(996)	_	(1,932)	_		
7070		六(六)		57,376	8	65,834	8		
	之份額								
7000	營業外收入及支出合計			67,401	9	64,896	_		
	稅前淨利			94,545	13	107,806	13		
	所得稅費用	六(廿一)		(18,433)	(2)	(19,708)	(3)		
8200	本年度淨利			76,112	11	88,098	10		
	其他綜合損益) (1 = 5							
8310	國外營運機構財務報表換算之	六(十五)		1,372	_	(3,574)	_		
02.60	兌換差額). (L mi)		(5.60)		4 225			
8360	確定福利之精算(損)益	六(十四)		(763)	_	4,237	_		
8380	採用權益法認列之子公司之其	六(六)		101	_	_	_		
9200	他綜合損益份額 與其他綜合損益組成部分相關	÷(# .)		(121)		(112)			
8399	一	六(廿一)		(121)	_	(113)			
8300	本年度其他綜合損益(稅後淨			589		550	_		
0300	新) 新)			307		330			
8500	本年度綜合損益總額		\$	76,701	11	\$ 88,648	10		
	每股盈餘	六(十六)	*	9					
9750	基本每股盈餘		\$	2.52		\$ 3.14			
9850	稀釋每股盈餘		\$	2.51		\$ 2.80			

後附之附註係本個體財務報告之一部分。

董事長: 林煥強

經理人: 林煥強

會計主管: 葉倚妡

富堡工業股份有限公司 個體權益變動表

民國 102 年及 101 年 1 月 1 日至 12 月 31 日

單位:新台幣仟元

								平匹: 別口巾口儿
					保留盈餘	其他權益項目		
代碼		股本	資本公積				國外營運機構財務	總計
1人4時		放 本	資本公 領	法定盈餘公積	特別盈餘公積	未分配盈餘	報表換算之兌換差	が 日
							額	
A1	101年1月1日餘額	\$ 273,392	\$ 86,916	\$ 16,025	\$ 38,609	\$ 128,343	\$ 15,950	\$ 559,235
	100 年度盈餘指撥及分配							
B1	法定盈餘公積	_	_	7,781	_	(7,781)	_	_
В5	現金股利	_	_	_	_	(49,211)	_	(49,211)
D1	101 年度淨利	_	_	_	_	88,098	_	88,098
D3	101 年度其他綜合損益	_	_	_	_	3,517	(2,967)	550
D5	101 年度綜合損益總額	_	_	_	_	91,615	(2,967)	88,648
I1	可轉換公司債轉換	169	324	_	_	_	_	493
Z 1	101年12月31日餘額	273,561	87,240	23,806	38,609	162,966	12,983	599,165
	101 年度盈餘指撥及分配							
В1	法定盈餘公積	_	_	8,773	_	(8,773)	_	_
В5	現金股利	_	_	_	_	(52,452)	_	(52,452)
В9	股票股利	8,282	_	_	_	(8,282)	_	_
D1	102 年度淨利	_	_	_	_	76,112	_	76,112
D3	102 年度稅後其他綜合損益	_	_	_	_	(550)	1,139	589
D5	102 年度綜合損益總額	_	_	_	_	75,562	1,139	76,701
I1	可轉換公司債轉換	28,751	55,908	_	_	_	_	84,659
Z 1	102年12月31日餘額	\$ 310,594	\$ 143,148	\$ 32,579	\$ 38,609	\$ 169,021	\$ 14,122	\$ 708,073

後附之附註係本個體財務報告之一部分。

董事長: 林煥強 經理人: 林煥強 會計主管: 葉倚妡

富堡工業股份有限公司 個體現金流量表

民國 102 年及 101 年 1 月 1 日至 12 月 31 日

單位:新台幣仟元

代 碼			102 年 度	单位: 新古帝行儿 101 年 度
AAAA			102 平 及	101 平 及
A10000		\$	94,545	\$ 107,806
A20010		Ψ	74,545	Ψ 107,000
A20100			15,536	17,440
A20200			1,250	493
A20300			(731)	137
A20400	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,		(188)	160
A20900			996	1,932
A21200	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,		(337)	(482)
A22400			(57,376)	(65,834)
A22500			(64)	(71)
A23900	未實現銷貨利益		1	336
A24000	已實現銷貨利益		(336)	(31)
A30000	營業資產及負債之淨變動數		, ,	, ,
A31110	持有供交易之金融資產		188	_
A31130	應收票據		1,578	(1,305)
A31150	應收帳款		27,361	(37,014)
A31160	應收帳款一關係人		273	449
A31180	其他應收款		43,759	(44,435)
A31190	其它應收款一關係人		(1,321)	49
A31200	存 貨		307	(7,831)
A31230	預付款項		(5,354)	1,508
A31240	其他流動資產		_	1
A32130	應付票據		(31,986)	2,140
A32150	×= / * 111 %		(17,253)	18,507
A32160	<u> </u>		1,051	(3,893)
A32180			(2,229)	4,080
A32190			_	(2,940)
A32200			2,245	(578)
A32210			(294)	(1,182)
A32230			(27)	1
A32240	. –		46	281
A33000			71,640	(10,276)
A33100			329	482
A33300	7 1,1 = 7,1 =		(339)	(1)
A33500			(7,373)	(10,359)
AAAA	營業活動之淨現金流入(流出)		64,257	(20,154)

(接次頁)

富堡工業股份有限公司

個體現金流量表(續)

民國 102 年及 101 年 1 月 1 日至 12 月 31 日

(承上頁)

單位:新台幣仟元

(+ , , ,			
代 碼		102 年 度	101 年 度
BBBB	投資活動之現金流量		
B00600	取得無活絡市場之債券投資	(3,111)	_
B00700	處分無活絡市場之債券投資	_	5,485
B01800	取得採用權益法之投資	_	(65)
B02700	取得不動產、廠房及設備	(6,741)	(5,359)
B02800	處分不動產、廠房及設備	48	_
B03700	存出保證金增加	_	(716)
B03800	存出保證金減少	849	_
B04500	取得無形資產	(829)	(3,000)
B07100	預付設備款增加	(3,800)	_
B07200	預付設備款減少	_	1,931
BBBB	投資活動之淨現金流出	(13,584)	(1,724)
CCCC	籌資活動之現金流量		
C00100	短期借款增加	27,561	_
C00200	短期借款減少	_	(2,000)
C01300	償還公司債	(10,500)	_
C03000	存入保證金增加	_	50
C04500	發放現金股利	(52,452)	(49,211)
CCCC	籌資活動之淨現金流出	(35,391)	(51,161)
DDDD	匯率變動對現金及約當現金之影響	216	(600)
EEEE	本期現金及約當現金增加(減少)數	15,498	(73,639)
E00100	期初現金及約當現金餘額	125,429	199,068
E00200	期末現金及約當現金餘額	\$ 140,927	\$ 125,429

後附之附註係本個體財務報告之一部分。

董事長: 林煥強

經理人: 林煥強

會計主管: 葉倚妡

富堡工業股份有限公司 個體財務報告附註

民國 102 年及 101 年 1 月 1 日至 12 月 31 日 (除另予註明者外,金額為新台幣仟元)

一、公司沿革

富堡工業股份有限公司(以下稱「本公司」)係於民國 66 年 8 月 29 日 設立於台北市之股份有限公司,主要營業項目為銷售及生產各種紙尿 褲、紙尿片、衛生棉等產品。

本公司股票自民國89年11月起在財團法人中華民國證券櫃檯買賣中心上櫃買賣。

本個體財務報告係以本公司之功能性貨幣新台幣表達。

二、通過財務報告之日期及程序

本公司個體財務報告已於民國103年3月24日經董事會通過發布。

三、新發布及修訂準則及解釋之適用

(一)已採用金融監督管理委員會(以下簡稱「金管會」)認可之新發布、 修正後國際財務報導準則之影響 本年度係首次採用國際財務報導準則,故不適用。

- (二)尚未採用金管會認可之新發布、修正後國際財務報導準則之影響 國際財務報導準則第9號「金融工具: 金融資產分類與衡量」
 - (1)國際會計準則理事會於民國 98 年 11 月發布國際財務報導準則 第 9 號,生效日為民國 102 年 1 月 1 日,得提前適用(惟國際會計準則理事會於民國 102 年 11 月 19 日業已刪除強制適用日期,得立即選擇適用)。此準則雖經金管會認可,惟金管會規定我國於民國 102 年適用國際財務報導準則時,企業不得提前採用此準則,應採用國際會計準則第 39 號「金融工具:認列與衡量」 2009 年版本之規定。

- (2)此準則係取代國際會計準則第 39 號之第一階段。國際財務報 導準則第9號提出金融工具分類及衡量之新規定, 且可能影響 本公司金融工具之會計處理。
- (3)本公司尚未評估國際財務報導準則第9號之整體影響,惟經初 步評估可能影響本公司持有分類為「備供出售金融資產 | 之工 具,因國際財務報導準則第9號規定僅於符合特定條件下之權 益工具,得指定將其公允價值變動認列為其他綜合損益,且於 該資產除列時不得將已認列之其他綜合損益轉列至當期損益。
- (三)國際會計準則理事會已發布但尚未經金管會認可之國際財務報導 準則之影響
 - 1.本公司尚未採用下列業經國際會計準則理事會發布生效,但未 經金管會認可之新發布、修訂及修正準則或解釋:

準則 / 解釋編號

主 要 內 容

牛效日

對首次採用者之有限度豁免(修正國 選擇適用國際財務報導準則第7 際財務報導準則第1號)

國際財務報導準則第7號之比較揭露 允許企業首次適用 IFRSs 時,得 民國 99 年 7 月 1 日 號「金融工具: 揭露 | 之過渡規 定,無須揭露比較資訊。

2010年對國際財務報導準則之改善

修正國際財務報導準則第 1、3 民國 100 年 1 月 1 日 及 7 號 國際會計準則第 1 及 34 號及國際財務報導解釋第 13 號 相關規定。

國際財務報導準則第 9 號「金融工 要求指定公允價值變動列入損 民國 102 年 11 月 19 具: 金融負債分類及衡量」

益之金融負債須將與該金融負 日(非強制) 債發行人本身有關之信用風險 所產生之公允價值變動反映於 「其他綜合損益」, 且於除列時 其相關損益不得轉列當期損 益。除非於原始認列時,即有合 理之證據顯示若將該公允價值 變動反映於「其他綜合損益」, 會造成重大之會計配比不當(不 一致), 則可反映於「當期損益」。 (該評估僅可於原始認列時決 定,續後不得再重評估)。

務報導準則第7號)

揭露 一金融資產之移轉(修正國際財 增加對所有於報導日存在之未 民國100年7月1日 除列之已移轉金融資產及對已 移轉資產之任何持續參與提供 額外之量化及質性揭露。

嚴重高度通貨膨脹及首次採用者固定 當企業之轉換日在功能性貨幣 民國100年7月1日 日期之移除(修正國際財務報導準則 正常化日以後,該企業得選擇以 第1號)

轉換日之公允價值衡量所持有 功能性貨幣正常化日前之所有 資產及負債。此修正亦允許企業 自轉換日起,推延適用國際會計 準則第 39 號「金融工具」之除 列規定及首次採用者得不必追 溯調整認列首日利益。

遞延所得稅: 標的資產之回收(修正國 以公允價值衡量之投資性不動 民國101年1月1日 際會計準則第12號)

產之資產價值應預設係經由出 售回收,除非有其他可反駁此假 設之證據存在。此外,此修正亦 取代了原解釋公告第 21 號「所 得稅: 重估價非折舊性資產之回 收」。

國際財務報導準則第10號「合併財務 該準則係在現有架構下重新定 民國102年1月1日 報表」

義控制之原則,建立以控制作為 決定那些個體應納入合併財務 報告之基礎: 並提供當不易判斷 控制時, 如何決定控制之額外指

國際財務報導準則第 11 號「聯合協 於判斷聯合協議之類型時,不再 民國 102 年 1 月 1 日 議」

只是著重其法律形式而是依合 約性權利與義務以決定分類為 聯合營運或是合資, 且廢除合資 得採用比例合併之選擇。

國際財務報導準則第12號「對其他個 該準則涵蓋所有對其他個體權 民國102年1月1日 體權益之揭露」

益之揭露, 包含子公司、聯合協 議、關聯企業及未合併結構型個 體。

國際會計準則第 27 號「單獨財務報 刪除合併財務報表之規定,相關 民國 102 年 1 月 1 日 表」(2011 年修正)

規定移至國際財務報導準則第 10 號「合併財務報表」。

及合資」(2011 年修正)

國際會計準則第28號「投資關聯企業 配合國際財務報導準則第11號 民國102年1月1日 「聯合協議」之訂定,納入合資 採用權益法之相關規定。

國際財務報導準則第 13 號「公允價值 定義公允價值,於單一國際財務 民國 102 年 1 月 1 日 衡量」

報導準則中訂定衡量公允價值 之架構, 並規定有關公允價值衡 量之揭露,藉以減少衡量公允價 值及揭露有關公允價值衡量資 訊之不一致及實務分歧, 惟並未 改變其他準則已規定之公允價 值衡量。

國際會計準則第 19 號「員工給付」 刪除緩衝區法並於精算損益發 民國 102 年 1 月 1 日 (2011年修正)

生期間認列於其他綜合損益,及 規定所有前期服務成本立即認 列,並以折現率乘以淨確定給付 負債(資產)計算而得之淨利息取 代利息成本及計畫資產之預期 報酬, 且除淨利息外之計畫資產 報酬列入其他綜合損益。

其他綜合損益項目之表達(修正國際 此修正將綜合損益表之表達,分 民國101年7月1日 會計準則第1號)

為「損益」及「其他綜合損益」 兩節,且要求「其他綜合損益」 節應將後續不重分類至損益者 及於符合特定條件時,後續將重 分類至損益者予以區分。

國際財務報導解釋第20號「露天礦場 符合特定條件之剝除活動成本 民國102年1月1日 於生產階段之剝除成本」

應認列為「剝除活動資產」。剝 除活動之效益係以產生存貨之 形式實現之範圍內,應依國際會 計準則第2號「存貨」規定處理。

揭露 一金融資產及金融負債之互抵 應揭露能評估淨額交割約定對 民國 102年1月1日 (修正國際財務報導準則第7號)

企業財務狀況之影響或潛在影 響之量化資訊。

際會計準則第32號

金融資產及金融負債之互抵(修正國 釐清國際會計準則第32號中「目 民國103年1月1日 前有法律上可執行之權利將所 認列之金額互抵」及「在總額交 割機制下, 亦可視為淨額交割之 特定條件」的相關規定。

政府貸款(修正國際財務報導準則第1 首次採用者對於在轉換日既存 民國102年1月1日 號)

之政府貸款, 推延適用國際財務 報導準則第9號「金融工具」及 國際會計準則第20「政府補助之 會計及政府輔助之揭露」之規定 處理, 且於轉換日既存低於市場 利率之政府貸款之利益不應認 列為政府補助。

2009 - 2011 年對國際財務報導準則 修正國際財務報導第1號和國際 民國 102 年 1 月 1 日 之改善

會計準則第 1、16、32 及 34 號 相關規定。

合併財務報表、聯合協議及對其他個 明確定義所謂「首次適用日」, 民國102年1月1日 體權益之揭露過渡指引(修正國際財 務報導準則第10、11及12號)

係指國際財務報導準則第10.11 及 12 號首次適用之年度報導期 間之首日。

投資個體(修正國際財務報導準則第 定義何謂「投資個體」及其典型 民國 103 年 1 月 1 日 10 及 12 號和國際會計準則第 27 號)

特性。符合投資個體定義之母公 司,不應合併其子公司而應適用 透過損益按公允價值衡量其子 公司。

國際財務報導解釋第21號「徵收款」除所得稅外,企業對於政府依據 民國 103年1月1日

法規所徵收之其他稅賦應依國 際會計準則第37號「負債準備、 或有負債及或有資產」之規定認 列負債。

非金融資產之可回收金額之揭露(修 當現金產生單位包含商譽或非 民國 103年 1月 1日 正國際會計準則第36號)

確定耐用年限之無形資產但未 有減損時,移除揭露可回收金額 之規定。

衍生工具之合約更替及避險會計之繼 衍生工具之原始交易雙方同意 民國 103 年 1 月 1 日 續(修正國際會計準則第39號)

由一個或多個結算者作為雙方 的新交易對象,且符合某些條件 時無須停止適用避險會計。

國際財務報導準則第 9 號「金融工 1.放寬被避險項目及避險工具之 民國 102 年 11 月 19 具:避險會計」及修正國際財務報導 準則第9號、國際財務報導準則第7 號與國際會計準則第39號

符合要件,並刪除高度有效之 日(非強制) 明確標準以貼近企業風險管 理活動對避險會計之適用。

2.得選擇單獨提早適用原始認列 時指定為透過損益按公允價 值衡量與該金融負債發行人 本身有關之信用風險所產生 之公允價值變動反映於「其他 綜合損益」之相關規定。

理(修正國際會計準則第19號)

與服務有關之員工或第三方提撥之處 允許與服務有關但不隨年資變 民國 103 年 7 月 1 日 動之員工或第三方提撥, 按當期 服務成本之減項處理。隨年資變 動者,於服務期間按與退休給付 計畫相同方式攤銷。

2010 -2012 年對國際財務報導準則 修正國際財務報導準則第2、3、 之改善

8 及 13 號和國際會計準則第 16、24及38號相關規定。

民國 103 年 7 月 1 日

之改善

2011 -2013 年對國際財務報導準則 修正國際財務報導準則第 1、3 民國 103 年 7 月 1 日 及13號和國際會計準則第40號 相關規定。

2.本公司現正評估上述新準則、解釋及修正之潛在影響,故暫時 無法合理估計對本公司之個體財務報告之影響。

上述國際會計準則理事會發布生效,但未經金管會認可之新發 布、修訂及修正準則或解釋,其實際生效日仍應以金管會發布 為準,惟本公司經評估下列各項在未來期間如採用上述準則或 解釋將會對本公司未來期間之財務報表造成影響如下:

(1)國際財務報導準則第12號「對其他個體權益之揭露」 國際財務報導準則第 12 號規定企業對所參與之合併個體及 未合併個體二者皆需作更多之揭露。國際財務報導準則第 12 號之目的係要求資訊之提供,以使財務報表使用者得據以衡量控制之基礎、對合併資產及負債之任何限制、因參與未合併之結構性個體所暴露之風險,以及非控制權益持有人對合併個體活動之參與情況。本公司尚在評估採用國際財務報導準則第 12 號對本公司所參與之合併個體及未合併個體揭露資訊之影響。

(2)國際財務報導準則第13號「公允價值衡量」

國際財務報導準則第 13 號定義公允價值、提供如何決定公允價值之指引,並規定公允價值衡量之揭露。本公司尚在評估採用國際財務報導準則第 13 號對本公司之金融工具有關揭露之影響。

(3)國際會計準則第1號「財務報表之表達」—其他綜合損益項目之表達

國際會計準則第1號修正其他綜合損益之表達方式,規定列示於其他綜合損益之項目應依據後續是否可能重分類至損益予以分組(即按照後續可能重分類至損益之項目及後續不可能重分類至損益之項目分組)。該修正同時規定以稅前金額列示之其他綜合損益項目,其相關稅額應隨前述兩分組類別予以單獨列示。本公司預期上述修正將改變本公司綜合損益表之表達方式。

(4)國際會計準則第19號「員工福利」

國際會計準則第 19 號「員工福利」修訂內容包括要求認列 淨確定福利負債(資產)之變動數、拆分確定福利成本之組成 部分、刪除精算損益得採「緩衝區法」之會計政策選擇並規 定精算損益應於發生時列入其他綜合損益,以及前期服務成 本應於發生時認列為損益,不再於符合既得條件前之平均期間內按直線法分攤認列為費用。此外,該修訂同時增加確定福利計畫之揭露。有關採用國際會計準則第 19 號之修訂內容對本公司員工福利會計處理之影響,本公司尚在評估中。

(5)國際會計準則第36號「資產減損」修訂有關非金融資產可回收金額之揭露規定

企業應於認列或迴轉減損損失之報導期間,揭露該個別資產 (包括商譽)或現金產生單位之可回收金額。若個別資產(包括 商譽)或現金產生單位之可回收金額係以公允價值減處分成 本衡量,依規定應於認列或迴轉減損損失之報導期間揭露額 外資訊。本公司尚在評估採用新修訂之國際會計準則第 36 號對本公司之非金融資產有關揭露之影響。

四、重大會計政策之彙總說明

本公司之重要會計政策彙總說明如下:

(一)遵循聲明

本個體財務報告係依照證券發行人財務報告編製準則(以下稱「個體財務報告會計準則」)編製。

(二)編製基礎

除按公允價值衡量之金融工具外,本個體財務報告係依歷史成本基礎編製。歷史成本通常係依取得資產所支付對價之公允價值決定。

本公司於編製個體財務報告時,對投資子公司係採權益法處理。為使本個體財務報告當年度之損益、其他綜合損益及權益與本公司合併財務報告中歸屬於本公司業主之當年度損益、其他綜合損益及權益相同,個體基礎與合併基礎下若干會計處理差異係調整「採用權益法之投資」、「採用權益法認列之子公司損益份額」

及「採用權益法認列之子公司之其他綜合損益份額」暨相關權益項目。

(三)資產與負債區分流動與非流動之標準

流動資產包括:

- 1.主要為交易目的而持有之資產;
- 2.預期於資產負債表日後12個月內實現之資產;及
- 3.現金及約當現金(但不包括於資產負債表日後逾 12 個月用以交換或清償負債而受到限制者)。

流動負債包括:

- 1.主要為交易目的而持有之負債:
- 2.預期於資產負債表日後12個月內到期清償之負債,以及
- 3.不能無條件將清償期限遞延至資產負債表日後至少12個月之負債。惟負債之條款可能依交易對方之選擇,以發行權益工具而導致其清償者,並不影響分類。

非屬上述流動資產或流動負債者,係分類為非流動資產或非流動 負債。

(四)外幣

編製個體財務報告時,以功能性貨幣以外之貨幣(外幣)交易者,依交易日匯率換算為功能性貨幣記錄。

外幣貨幣性項目於每一資產負債表日以收盤匯率換算。因交割貨幣性項目或換算貨幣性項目產生之兌換差額,於發生當期認列於 捐益。

以公允價值衡量之外幣非貨幣性項目係以決定公允價值當日之匯 率換算,所產生之兌換差額列為當期損益,惟屬公允價值變動認 列於其他綜合損益者,其產生之兌換差額列於其他綜合損益。

以歷史成本衡量之外幣非貨幣性項目係以交易日之匯率換算,不 再重新換算。 於編製個體財務報告時,本公司國外營運機構(包含營運所在國家或使用之貨幣與本公司不同之子公司、關聯企業、合資或分公司)之資產及負債以每一資產負債表日匯率換算為新台幣。收益及費損項目係以當期平均匯率換算,所產生之兌換差額列於其他綜合損益。

(五)存 貨

存貨包括原料、物料、製成品及商品。存貨係以成本與淨變現價 值孰低衡量,比較成本與淨變現價值時除同類別存貨外係以個別 項目為基礎。淨變現價值係指在正常情況下之估計售價減除至完 工尚需投入之估計成本及完成出售所需之估計成本後之餘額。存 貨成本之計算係採加權平均法。

(六)採用權益法之投資

本公司採用權益法處理對子公司之投資。

子公司係指本公司具有控制之個體。

在權益法下,投資子公司原始係依成本認列,其後帳面金額係隨本公司所享有之子公司損益及其他綜合損益份額與利潤分配而增減。此外,本公司亦按持股比例認列子公司其他權益之變動。

當本公司對子公司所有權權益之變動未導致喪失控制者,係作為權益交易處理。投資帳面金額與所支付或收取對價之公允價值間 之差額,係直接認列為權益。

當喪失對子公司控制時,本公司係按喪失控制日之公允價值衡量 其對前子公司之剩餘投資,剩餘投資之公允價值及任何處分價款 與喪失控制當日之投資帳面金額之差額 列入當年度損益。此外, 於其他綜合損益中所認列與該子公司有關 之所有金額 其會計處 理係與本公司直接處分相關資產或負債所必須遵循之基礎相同。 對前子公司剩餘投資係按喪失控制日之公允價值作為原始認列投 資關聯企業之成本。 本公司與子公司之順流交易未實現損益於個體財務報告予以銷除。 本公司與子公司之逆流及側流交易所產生之損益,僅在與本公司 對子公司權益無關之範圍內,認列於個體財務報告。

(七)不動產、廠房及設備

不動產、廠房及設備係以成本認列,後續以成本減除累計折舊及 累計減損損失後之金額衡量。

建造中之不動產、廠房及設備係以成本減除累計減損損失後之金額認列。成本包括專業服務費用,及符合資本化條件之借款成本。該等資產於完工並達預期使用狀態時,分類至不動產、廠房及設備之適當類別並開始提列折舊。

不動產、廠房及設備係採直線基礎提列折舊,對於每一重大部分則單獨提列折舊。本公司至少於每一年度結束日對估計耐用年限、殘值及折舊方法進行檢視。會計估計變動之影響係以推延方式處理。

除列不動產、廠房及設備所產生之利益或損失金額,係淨處分價款與該資產帳面金額間之差額,並且認列於當期損益。

(八)無形資產

1.單獨取得

單獨取得之有限耐用年限無形資產原始以成本衡量,後續係以成本減除累計攤銷及累計減損損失後之金額衡量。本公司以直線基礎進行攤銷,並且至少於每一年度結束日對估計耐用年限、 殘值及折舊方法進行檢視。除本公司預期於該無形資產經濟年 限屆滿前處分該資產外,有限耐用年限無形資產之殘值估計為 零。會計估計變動之影響係以推延方式處理。

 2.內部產生一研究及發展支出 研究之支出於發生時認列為費用。 本公司於符合下列所有條件時,開始認列內部計畫發展階段之無形資產:

- (1)完成無形資產之技術可行性已達成,將使該無形資產可供使 用或出售:
- (2)意圖完成該無形資產,並加以使用或出售;
- (3)有能力使用或出售該無形資產;
- (4)無形資產將產生很有可能之未來經濟效益;
- (5)具充足之技術、財務及其他資源完成此項發展,並使用或出售該無形資產,及
- (6)歸屬於該無形資產發展階段之支出,能夠可靠衡量。

內部產生無形資產之成本係自首次均符合上述條件之日起所發 生之支出總和認列,後續係以成本減除累計攤銷及累計減損損 失後之金額衡量。

3.除 列

除列無形資產所產生之利益或損失金額,係淨處分價款與該資產帳面金額間之差額,並且認列於當期損益。

(九)有形及無形資產之減損

本公司於每一資產負債表日評估是否有任何跡象顯示有形及無形 資產可能已減損。若有任一減損跡象存在,則估計該資產之可回 收金額。倘無法估計個別資產之可回收金額,本公司估計該資產 所屬現金產生單位之可回收金額。

針對非確定耐用年限及尚未可供使用之無形資產,至少每年進行減損測試,或於有減損跡象時進行減損測試。

可回收金額為公允價值減出售成本與其使用價值之較高者。個別 資產或現金產生單位之可回收金額若低於其帳面金額時,將該資 產或現金產生單位之帳面金額調減至其可回收金額。 當減損損失於後續迴轉時,該資產或現金產生單位之帳面金額調增至修訂後之可回收金額,惟增加後之帳面金額以不超過該資產或現金產生單位若未於以前年度認列減損損失時所決定之帳面金額(減除攤銷或折舊)。減損損失之迴轉係認列於損益。

(十)金融工具

金融資產與金融負債於本公司成為該工具合約條款之一方時認列於個體資產負債表。

原始認列金融資產與金融負債時,若金融資產或金融負債非屬透過損益按公允價值衡量者,係按公允價值加計直接可歸屬於取得或發行金融資產或金融負債之交易成本衡量。直接可歸屬於取得或發行透過損益按公允價值衡量之金融資產或金融負債之交易成本,則立即認列為損益。

1.金融資產

金融資產之慣例交易係採交易日會計認列及除列。

(1)衡量種類

本公司所持有之金融資產種類為透過損益按公允價值衡量之金融資產與放款及應收款。

A.透過損益按公允價值衡量之金融資產

透過損益按公允價值衡量之金融資產係按公允價值衡量, 其再衡量產生之利益或損失(包含該金融資產所產生之任何股利或利息)係認列於損益。

B.放款及應收款

放款及應收款(包括應收帳款、現金及約當現金與無活絡市場之債券投資)係採用有效利息法按攤銷後成本減除減損損失後之金額衡量,惟短期應收帳款之利息認列不具重大性之情況除外。

約當現金包括自取得日起3個月內、高度流動性、可隨時轉換成定額現金且價值變動風險甚小之定期存款,係用於滿足短期現金承諾。

(2)金融資產之減損

除透過損益按公允價值衡量之金融資產外,本公司係於每一 資產負債表日評估其他金融資產是否有減損客觀證據,當有 客觀證據顯示,因金融資產原始認列後發生之單一或多項事 項,致使金融資產之估計未來現金流量受損失者,該金融資 產即已發生減損。

按攤銷後成本列報之金融資產,如應收帳款,該資產經個別評估未有減損後,另再集體評估減損。應收款集體存在之客觀減損證據可能包含本公司過去收款經驗、集體超過平均授信期間之延遲付款增加情況,以及與應收款拖欠有關之可觀察全國性或區域性經濟情勢變化。

按攤銷後成本列報之金融資產之減損損失金額係該資產帳面金額與估計未來現金流量按該金融資產原始有效利率折現之現值間之差額。

按攤銷後成本列報之金融資產於後續期間減損損失金額減少,且經客觀判斷該減少與認列減損後發生之事項有關,則先前認列之減損損失直接或藉由調整備抵帳戶予以迴轉認列於損益,惟該迴轉不得使金融資產帳面金額超過若未認列減損情況下於迴轉日應有之攤銷後成本。

所有金融資產之減損損失係直接自金融資產之帳面金額中 扣除,惟應收帳款係藉由備抵帳戶調降其帳面金額。當判斷 應收帳款無法收回時,係沖銷備抵帳戶。原先已沖銷而後續 收回之款項則貸記備抵帳戶。除因應收帳款無法收回而沖銷 備抵帳戶外,備抵帳戶帳面金額之變動認列於損益。

(3)金融資產之除列

本公司僅於對來自金融資產現金流量之合約權利失效,或已 移轉金融資產且該資產所有權之幾乎所有風險及報酬已移 轉予其他企業時,始將金融資產除列。

於一金融資產整體除列時,其帳面金額與所收取對價加計已認列於其他綜合損益之任何累計利益或損失之總和間之差額係認列於損益。

2.權益工具

本公司發行之債務及權益工具係依據合約協議之實質與金融負債及權益工具之定義分類為金融負債或權益。

本公司發行之權益工具係以取得之價款扣除直接發行成本後之金額認列。

再取回本公司本身之權益工具係於權益項下認列與減除。購買、出售、發行或註銷本公司本身之權益工具不認列於損益。

3.金融負債

(1)後續衡量

所有金融負債係以有效利息法按攤銷後成本衡量。

(2)金融負債之除列

除列金融負債時,其帳面金額與所支付對價(包含任何所移轉之非現金資產或承擔之負債)間之差額認列為損益。

4.可轉換公司債

本公司發行之複合金融工具(可轉換公司債)係依據合約協議之

實質與金融負債及權益工具之定義,於原始認列時將其組成部分分別分類為金融負債及權益。

原始認列時,負債組成部分之公允價值係以類似之不可轉換工 具當時市場利率估算,並於執行轉換或到期日前,以有效利息 法計算之攤銷後成本衡量。屬嵌入非權益衍生工具之負債組成 部分則以公允價值衡量。

分類為權益之轉換權係等於該複合工具整體公允價值減除經單獨決定之負債組成部分公允價值之剩餘金額,經扣除所得稅影響數後認列為權益,後續不再衡量。於該轉換權被執行時,其相關之負債組成部分及於權益之金額將轉列股本及資本公積—發行溢價。可轉換公司債之轉換權若於到期日仍未被執行,該認列於權益之金額將轉列資本公積—發行溢價。

發行可轉換公司債之相關交易成本,係按分攤總價款之比例分 攤至該工具之負債(列入負債帳面金額)及權益組成部分(列入權 益)。

5.衍生工具

本公司簽訂之衍生工具包括遠期外匯合約,用以管理本公司之匯率風險。

衍生工具於簽訂衍生工具合約時,原始以公允價值認列,後續 於資產負債表日按公允價值再衡量,後續衡量產生之利益或損 失直接列入損益。當衍生工具之公允價值為正值時,列為金融 資產;公允價值為負值時,列為金融負債。

嵌入式衍生工具之風險及特性與主契約之風險及特性並非緊密 關聯,且主契約非屬透過損益按公允價值衡量之金融資產或金 融負債時,該衍生工具係視為單獨衍生工具。

(十一)負債準備

認列為負債準備之金額係考量義務之風險及不確定性,而為資產 負債表日清償義務所需支出之最佳估計。若負債準備係以清償該 現時義務之估計現金流量衡量,其帳面金額係為該等現金流量之 現值(若貨幣之時間價值影響重大)。

(十二)收入認列

收入係按已收或應收對價之公允價值衡量,並扣除估計之客戶退 貨、折扣及其他類似之折讓。銷貨退回係依據以往經驗及其他攸 關因素合理估計未來之退貨金額提列。

1.商品之銷售

銷售商品係於下列條件完全滿足時認列收入:

- (1)本公司已將商品所有權之重大風險及報酬移轉予買方;
- (2)本公司對於已經出售之商品既不持續參與管理,亦未維持有效控制:
- (3)收入金額能可靠衡量;
- (4)與交易有關之經濟效益很有可能流入本公司;及
- (5)與交易有關之已發生或將發生之成本能可靠衡量。

去料加工時,加工產品所有權之重大風險及報酬並未移轉,是以去料時不作銷貨處理。

2.股利收入及利息收入

投資所產生之股利收入係於股東收款之權利確立時認列,惟前 提係與交易有關之經濟效益很有可能流入本公司,且收入金額 能可靠衡量。

金融資產之利息收入係於經濟效益很有可能流入本公司,且收入金額能可靠衡量時認列。利息收入係依時間之經過按流通在外本金與所適用之有效利率採應計基礎認列。

(十三)租 賃

當租賃條款係移轉附屬於資產所有權之幾乎所有風險與報酬予承租人則將其分類為融資租賃。所有其他租賃則分類為營業租賃。

1.本公司為出租人

融資租賃下,應向承租人收取之款項係按本公司之租賃投資淨額認列為應收租賃款。融資收益係分攤至各會計期間,以反映本公司未到期之租賃投資淨額於各期間可獲得之固定報酬率。營業租賃之租賃收益係按直線基礎於相關租賃期間內認列為收益。營業租賃下,或有租金於發生當期認列為收益。

2.本公司為承租人

融資租賃係以各期最低租賃給付現值總額或租賃開始日租賃資 產公允價值較低者作為成本入帳,並同時認列應付租賃款負債。

最低租賃給付係分配予財務費用及降低租賃負債,以使按負債 餘額計算之期間利率固定。每期所支付租賃款中之隱含利息列 為當期之財務費用,財務費用可直接歸屬於符合要件之資產者, 則予以資本化。或有租金於發生當期認列為費用。

營業租賃給付係按直線基礎於租賃期間內認列為費用。營業租 賃下,或有租金於發生當期認列為費用。

(十四)政府補助

政府補助僅於可合理確信本公司將遵循政府補助所附加之條件, 且將可收到該項補助時,始予以認列。

若政府補助係用於補償已發生之費用或損失,或係以給與本公司 立即財務支援為目的且無未來相關成本,則於其可收取之期間認 列於損益。

(十五)退職後福利

屬確定提撥退休計畫之退休金,係於員工提供服務之期間,將應提撥之退休金數額認列為當期費用。

屬確定福利退休計畫之退休金,提供福利之成本係使用預計單位福利法進行精算評價。確定福利義務產生之所有精算損益於發生期間立即認列於其他綜合損益。前期服務成本於福利已既得之範圍內立即認列,非屬已既得之部分則於福利成為既得前之平均期間內,以直線基礎攤銷。

應計退休金負債係代表確定福利義務之現值、調整未認列前期服務成本,並減除計畫資產公允價值後之金額。任何依此方式計算所產生之資產,不得超過累積未認列前期服務成本,加上該計畫之可得退還資金及可減少未來提撥金之現值。

確定福利退休計畫發生縮減或清償時,認列縮減或清償之損益。

(十六)所得稅

所得稅費用係當期所得稅及遞延所得稅之總和。

1.當期所得稅

當期所得稅包括當 課稅所得(損失)按報導日之法定稅 或實質性 法稅 計算之預計應付所得稅或應收退稅款,及任 何對以前 應付所得稅的調整,另依所得稅法規定計算之未 分配盈餘加徵 10%所得稅列為股東會決議年度之所得稅費用。

2.遞延所得稅

遞延所得稅係依個體財務報表帳載資產及負債帳面金額與計算 課稅所得之課稅基礎二者所產生之暫時性差異予以認列。遞延 所得稅負債一般係就所有應課稅暫時性差異予以認列,而遞延 所得稅資產則於很有可能有課稅所得以供可減除暫時性差異使 用時認列。

與投資子公司、關聯企業及合資權益相關之應課稅暫時性差異 皆認列遞延所得稅負債,惟本公司若可控制暫時性差異迴轉之 時點,且該暫時性差異很有可能於可預見之未來不會迴轉者除 外。與此類投資及權益有關之可減除暫時性差異所產生之遞延 所得稅資產,僅於其很有可能有足夠課稅所得用以實現暫時性 差異之利益,且於可預見之未來預期將迴轉的範圍內,予以認 列。

遞延所得稅資產之帳面金額於每一資產負債表日予以重新檢視, 並針對已不再很有可能有足夠之課稅所得以供其回收所有或部 分資產者,調減帳面金額。原未認列為遞延所得稅資產者,亦 於每一資產負債表日予以重新檢視,並在未來很有可能產生課 稅所得以供其回收所有或部分資產者,調增帳面金額。

遞延所得稅資產及負債係以預期負債清償或資產實現當期之稅 率衡量,該稅率係以資產負債表日已立法或已實質性立法之稅 率及稅法為基礎。遞延所得稅負債及資產之衡量係反映企業於 資產負債表日預期回收或清償其資產及負債帳面金額之方式所 產生之租稅後果。

3.本年度之當期及遞延所得稅

當期及遞延所得稅係認列於損益,惟與認列於其他綜合損益或 直接計入權益之項目相關之當期及遞延所得稅係分別認列於其 他綜合損益或直接計入權益。若當期所得稅或遞延所得稅係自 企業個體所產生,其所得稅影響數納入企業個體之會計處理。

五、重大會計判斷、估計及假設不確定性之主要來源

本公司於採用附註四所述之會計政策時,對於不易自其他來源取得有關資產及負債帳面金額之資訊作出相關之判斷、估計及假設。估計及相關假設係基於歷史經驗及其他視為攸關之因素。實際結果可能與估計有所不同。

估計與基本假設係持續予以檢視。若估計之修正僅影響當期,則於會計估計修正當期認列。若會計估計之修正同時影響當期及未來期間,則於估計修正當期及未來期間認列。

以下係有關未來所作主要假設之資訊,以及於財務報導結束日估計不確定性之其他主要來源,該等假設及估計具有導致資產及負債帳面金額於下一財務年度重大調整之風險。

(一)存貨之評價

由於存貨須以成本與淨變現價值孰低者計價,故本公司必須運用 判斷及估計決定財務報導期間結束日存貨之淨變現價值。

由於產業快速變遷,本公司評估財務報導期間結束日存貨因正常 損耗、過時陳舊或無市場銷售價值之金額,並將存貨成本沖減至 淨變現價值。此存貨評價主要係依未來特定期間內之產品需求為 估計基礎,故可能產生重大變動。

本公司存貨之帳面金額詳附註六(四)。

(二)應收款項之估計減損

當有客觀證據顯示減損跡象時,本公司會考量未來現金流量之估計。減損損失之金額係以該資產之帳面金額及估計未來現金流量 (排除尚未發生之未來信用損失)按該金融資產之原始有效利率折 現之現值間的差額衡量。若未來實際現金流量少於預期,可能會 產生重大減損損失。

本公司應收帳款扣除已提列備抵呆帳後之帳面金額詳附註六(五)。

(三)有形資產及無形資產減損評估

資產減損評估過程中,本公司需依賴主觀判斷並依據資產使用模式及產業特性,決定特定資產群組之獨立現金流量資產耐用年數及未來可能產生之收益與費損,任何由於經濟狀況之變遷或公司策略所帶來的估計改變均可能在未來造成重大減損。

本公司民國 102 年度及 101 年度均未產生資產減損損失。

(四)應計退休金負債之計算

計算確定福利義務之現值時,本公司必須運用判斷及估計以決定財務報導期間結束日之相關精算假設,包含折現率及計畫資產之預期報酬率等。任何精算假設之變動,均可能會重大影響本公司確定福利義務之金額。

本公司應計退休金負債之帳面金額詳附註六(十四)。

(五)遞延所得稅資產之可實現性

遞延所得稅資產係於未來很有可能有足夠之課稅所得供可減除暫時性差異使用時方予以認列。評估遞延所得稅資產之可實現性時,必須涉及管理階層之重大會計判斷及估計,包含預期未來銷貨收入成長及利潤率、免稅期間、可使用之所得稅抵減、稅務規劃等假設。任何關於全球經濟環境、產業環境的變遷及法令的改變,均可能引起遞延所得稅資產之重大調整。

本公司認列之遞延所得稅資產帳面金額詳附註六(廿一)。

六、重要會計科目之說明

(一)現金及約當現金

	102年	12月31日	101年	至12月31日	101 4	年1月1日
庫存現金及週轉金	\$	179	\$	170	\$	246
活期存款及支票存款		123,748		78,259		198,822
約當現金						
原始到期日在3個月 以內之銀行定期存款		17,000		47,000		_
合 計	\$	140,927	\$	125,429	\$	199,068
利率區間	0.02	%~0.89%	0.0	0.02%~0.89%		2%~0.17%

(二)無活絡市場之債券投資

	102年	12月31日	101年12月31日		101	年1月1日
流 動						
備償戶	\$	3,111	\$	_	\$	5,485

無活絡市場之債券投資質押之資訊,參閱附註八。

(三)應收票據及帳款

	102年	12月31日	101年12月31日		101	年1月1日
應收票據						
因營業而發生	\$	2,657	\$	4,235	\$	2,930
減: 備抵呆帳		_		_		_
合 計	\$	2,657	\$	4,235	\$	2,930
應收帳款						
應收帳款-非關係人	\$	113,274	\$	140,635	\$	103,621
減: 備抵呆帳		(592)		(1,323)		(1,186)
應收帳款-非關係人淨額		112,682		139,312		102,435
應收帳款-關係人		135		408		857
合 計	\$	112,817	\$	139,720	\$	103,292

- 1.本公司對客戶之授信期間原則上為發票日後三十天,部分客戶則 為月結三十天至九十天。備抵呆帳係參考帳齡分析、歷史經驗及 客戶目前財務狀況分析,以估計無法回收之金額。
- 2.除已提列減損者,其餘應收票據及帳款金額於報導期間結束日之帳齡分析請參閱下表。本公司針對已逾期但未提列減損之應收帳

款,經評估其信用品質並未發生重大改變且相關帳款仍可回收,故尚無減損疑慮。

3. 應收票據及帳款淨額之帳齡分析:

	102 년	02年12月31日		101年12月31日		年1月1日
未逾期亦未減損	\$	93,699	\$	122,601	\$	85,203
已逾期但未減損						
30 天內		16,072		18,001		19,793
31 至 60 天		5,473		3,317		1,226
61 至 90 天		230		36		_
小 計		21,775		21,354		21,019
合 計	\$	115,474	\$	143,955	\$	106,222

以上係以逾期天數為基準進行之帳齡分析。

4. 應收帳款之備抵呆帳變動資訊如下:

	102	2年度	10	1年度
期初餘額	\$	1,323	\$	1,186
備抵呆帳迴轉利益		(731)		_
減損損失		_		137
期末餘額	\$	592	\$	1,323

(四)存 貨

		102年1	102年12月31日		2月31日	101年1	月1日
製质	5 品	\$	33,343	\$	36,217	\$	32,350
原	料		27,475		26,052		22,247
物	料		1,793		1,854		2,270
商	品		16,217		15,012		14,437
合	計	\$	78,828	\$	79,135	\$	71,304

民國 102 年度及 101 年度與存貨相關之銷貨成本分別為 564,573 仟元及 679,173 仟元。民國 102 年度之銷貨成本包括將存貨成本沖減至淨變現價值而認列之存貨跌價損失分別為 661 仟元,民國 101 年度之銷貨成本包括存貨淨變現價值回升利益 975 仟元,存貨淨變現價值回升係因存貨於特定市場之銷售價格上揚所致。

(五)預付款項

	102年12月31日		101年12月31日		101 4	年1月1日
預付費用	\$	2,200	\$	1,885	\$	1,054
用品盤存		96		97		96
預付貨款		16,861		11,821		14,161
預付退休金		_		301		_
預付設備款		14,074		10,274		12,205
合 計	\$	33,231	\$	24,378	\$	27,516
流動	\$	19,157	\$	13,803	\$	15,311
非流 動	\$	14,074	\$	10,575	\$	12,205

(六)採用權益法之投資

	102年12月31日		101年12月31日		101年1月1日	
非上市(櫃)子公司						
Fu Burg International Holding Co. (U.S.A.)	\$	171,498	\$	110,706	\$	62,352
Fu Burg Industrial (Thailand) Co., Ltd.		121,530		121,246		107,096
富安德堡投資有限公司		13,164		15,210		15,612
合 計	\$	306,192	\$	247,162	\$	185,060

1.本公司於資產負債表日對子公司之所有權權益及表決權百分比如下:

公司名稱	102年12月31日	101年12月31日	101年1月1日
Fu Burg International Holding Co. (U.S.A.)	100%	100%	100%
Fu Burg Industrial (Thailand) Co., Ltd.	70%	70%	70%
富安德堡投資有限公司	100%	100%	100%

2.有關本公司子公司之財務資訊彙整如下:

	102年12月31日		101年12月31日		101年1月1日	
總 資 產	\$	590,959	\$	466,179	\$	409,549
總 負 債		232,388		165,825		177,793
淨 資 產	\$	358,571	\$	300,354	\$	231,756
本公司所享有子公司 淨資產之份額	\$	306,192	\$	247,162	\$	185,060

	1	02 年度	1	01 年度
總 收 入	\$	646,080	\$	670,720
年度總損益	\$	59,434	\$	72,758
本公司所享有子公司淨益 之份額	\$	57,376	\$	65,834
本公司所享有子公司其他 綜合損益之份額	\$	101	\$	_

民國 102 年度及 101 年度採用權益法之子公司之損益及其他綜合 損益份額,係依據各子公司同期間經會計師查核之財務報告認 列。

(七)不動產、廠房及設備

102 年度

項目	期初餘額	増添	處 分	匯率影響數	期末餘額
成本					
土 地	\$ 19,306	\$	s –	\$ —	\$ 19,306
土地一重估增值	64,287	_	_	_	64,287
房屋及建築	150,509	350	_	_	150,859
機器設備	219,580	2,850	(1,858)	_	220,572
運輸設備	2,780	_	_	_	2,780
辦公設備	66,948	807	(324)	(1)	67,430
租賃改良	6,494	_	_	(1)	6,493
小 計	529,904	4,007	(2,182)	(2)	531,727
累計折舊					
房屋及建築	90,120	3,111	_	_	93,231
機器設備	178,637	9,867	(1,808)	(1)	186,695
運輸設備	844	463	_	_	1,307
辦公設備	63,444	1,735	(319)	(10)	64,850
租賃改良	3,524	360		(1)	3,883
小 計	336,569	15,536	(2,127)	(12)	349,966
淨額	\$ 193,335	\$ (11,529)	\$ (55)	\$ 10	\$ 181,761

101	年	度

項目	期初餘額	增添	處分	匯率影響數	期末餘額
成本					
土 地	\$ 19,306	\$ -	\$ -	\$ -	\$ 19,306
土地一重估增值	64,287	_	_	_	64,287
房屋及建築	149,968	541	_	_	150,509
機器設備	216,504	3,340	(264)	_	219,580
運輸設備	2,780	_	_	_	2,780
辦公設備	66,610	386	(52)	4	66,948
租賃改良	6,494			_	6,494
小 計	525,949	4,267	(316)	4	529,904
累計折舊					
房屋及建築	86,939	3,181	_	_	90,120
機器設備	167,425	11,476	(264)	_	178,637
運輸設備	381	463	_	_	844
辦公設備	61,532	1,960	(52)	4	63,444
租賃改良	3,164	360	_	_	3,524
小 計	319,441	17,440	(316)	4	336,569
淨額	\$ 206,508	\$ (13,173)	\$ —	<u> </u>	\$ 193,335

1.本公司固定資產折舊費用攤提年限如下:

建築物	3至40年
機器設備	4至10年
運輸設備	5年
辦公設備	3至6年
租賃改良	6至35年

2.本公司設定抵押作為借款擔保之不動產、廠房及設備金額,請參閱附註八。

(八)無形資產

			10)2	年	度		
項目	期	初餘額	增	添	處	分	期	末餘額
成本					_			
電腦軟體	\$	3,387	\$	700	\$	_	\$	4,087
專 利 權		270		129		_		399
小 計		3,657		829	_	_		4,486
累計攤銷					_			
電腦軟體		570		1,168		_		1,738
專 利 權		93		82		_		175
小 計		663		1,250	_	_		1,913
淨額	\$	2,994	\$	(421)	\$	_	\$	2,573
			10)1	年	度		
項目	期	初餘額	增	添	處	分	期	末餘額
成本								
電腦軟體	\$	387	\$	3,000	\$	_	\$	3,387
專 利 權		270		_		_		270
小 計		657		3,000	_	_		3,657
累計攤銷					_			
電腦軟體		108		462		_		570
專 利 權		62		31		_		93
小 計		170		493		_		663
淨 額	\$	487	\$	2,507	\$	_	\$	2,994

1.上述有限耐用年限無形資產係以直線基礎按下列耐用年數計提攤銷費用:

電腦軟體

2至3年

專利權

9至10年

2.本公司民國 102 年度及 101 年度所認列之攤銷費用納入綜合損益 表中之營業費用之金額分別為 1,250 仟元及 493 仟元。

(九)短期借款

	102年	12月31日	101年	12月31日	101 年	F1月1日
信用借款	\$	27,782	\$	4,216	\$	6,216
擔保借款		3,995		_		_
合 計	\$	31,777	\$	4,216	\$	6,216
利率區間	1.33	%~2.45%	1.55	5%~2.87%	1.52	9%~2.87%

有關資產提供作為短期借款之擔保情形請參閱附註八。

(十)應付票據及帳款

		102年	12月31日	101年	三12月31日	101 4	年1月1日
應付	票據一非關係人	\$	_	\$	31,986	\$	29,846
應付	帳款─非關係人		37,432		54,685		36,178
應付	帳款─關係人		1,680		629		4,522
小	計		39,112		55,314		40,700
合	計	\$	39,112	\$	87,300	\$	70,546
流	動	\$	39,112	\$	87,300	\$	70,546

- 1.本公司與供應商之交易條件為月結 30~60 天,本公司訂有財務風 險管理政策,以確保所有應付款於預先約定之信用期限內償還。
- 2.本公司暴露於匯率與流動性風險之應付款項及其他應付款相關揭露,請參閱附註六(廿四)。

(十一)其他應付款

		102年12	2月31日	101年12月31日		101 年	三1月1日
其他應	付款一關係人	\$	_	\$	_	\$	2,940
其他應	付款一非關係人						
應付	薪資		9,161		4,965		4,906
應付	佣金		5,061		4,772		4,992
應付	員工紅利		2,720		3,158		2,801
應付	董監酬勞		2,720		3,158		2,801
應付	運費		1,247		3,531		3,450
應付	修繕費		780		1,539		1,994
應付	設備款		_		2,733		3,826
其他	應付款—其他		8,583		11,378		7,476
小	計		30,272		35,234		32,246
合	計	\$	30,272	\$	35,234	\$	35,186
流	動	\$	30,272	\$	35,234	\$	35,186
合	計		30,272	-	35,234		35,186

其他應付款—其他包含應付勞務費、應付退休金及應付保險費等。

(十二)負債準備

102 年 度

		工福利 責準備		法律程序決 短期準備	4	計		
期初餘額	\$	160	\$	_	\$	160		
本期認列		1,035		1,210		2,245		
期末餘額	\$	1,195	\$	1,210	\$	2,405		
流 動	\$	1,195	\$	1,210	\$	2,405		
			10	1年度				
		工福利 責準備		法律程序決 短期準備	É	計		
期初餘額	\$	738	\$		\$	738		
本期沖轉		(578)		_		(578)		
期末餘額	\$	160	\$		\$	160		
流 動	\$	160	\$	_	\$	160		

- 1.員工福利負債準備係員工享有既得休假權利之估列,既得休假權 利部分於員工實際休假或現金給付時沖轉。
- 2.本公司於民國 99 年 11 月資遣某業務員,因該員不服向法院提出確認僱傭關係存在之民事訴訟,經臺灣高雄地方法院一審 100 年度勞訴字第 44 號判決本公司敗訴,本公司再上訴,第二審臺灣高等地方法院高雄分院 100 年度勞上字第 28 號判決本公司敗訴。本公司聲明上訴,現由最高法院審理中,本公司認為可成功對抗該員之請求,故未揭露其他相關資訊。
- 3.上述準備因均係屬短期或因折現影響不大,故未予折現。

(十三)應付公司債

	102年12月	31日	101年12	2月31日	101年	1月1日
應付公司債	\$	_	\$	95,400	\$	95,900
減:應付公司債折價		_		(899)		(2,837)
合 計	\$	_	\$	94,501	\$	93,063
流動	\$	_	\$	94,501	\$	_
非流 動	\$	_	\$	_	\$	93,063

本公司於民國 99 年 4 月 19 日經董事會決議發行國內第一次擔保可轉換公司債,並經主管機關於民國 99 年 5 月 11 日核准在案,並於民國 99 年 6 月 3 日發行,主要發行條款如下:

- 1.發行總額: 150,000 仟元。
- 2.發行價格:依票面金額發行,每張100仟元。
- 3.票面利率: 0%
- 4.發行期間: 3年(自民國 99年6月3日至民國 102年6月3日)
- 5.轉換期間:於轉換公司債發行日起滿一個月之次日起,至到期日 前十日止。
- 6.轉換價格及其調整:

發行時之轉換價格訂為每股 35.75 元,惟本公司債發行後,遇有本公司普通股股份發生變動或有以低於每股時價之轉換價格再發行轉換公司債時,轉換價格依發行條款規定公式調整之。

7.贖回權:

(1)自發行日起滿一個月之翌日起至發行期間屆滿前四十日止, 本公司普通股在櫃檯買賣中心之收盤價格連續三十個營業日 超過當時本債券轉換價格達百分之三十(含)以上時,本公司得 於其後三十個營業日內通知債權人按債券面額,以現金收回 其全部債券。 (2)自發行日起滿一個月之翌日起至發行期間屆滿前四十日止, 本轉換公司債流通在外餘額低於原發行總額之百分之十時, 公司得按債券面額,以現金收回其全部債券。若債權人接獲 「債券收回通知書」所載債券收回基準日前,未以書面回覆 本公司股務代理機構者,本公司得按當時之轉換價格,以通 知期間屆滿日為轉換基準日,將其轉換公司債轉換為本公司 新發行之普通股。

8. 擔保情況:

本公司委託中國信託商業銀行股份有限公司依其承諾之保證額度保證發行。

- 9.本轉換公司債面額計 84,900 仟元已轉換為普通股 2,875,020 股,截至民國 102年12月31日因轉換而產生之資本公積為55,908 仟元。 另,本公司針對剩餘之未轉換公司債面額計 10,500 仟元,業已於到期日加計利息並贖回。
- 10.本公司於發行時將該轉換權與負債分離, 截至民國 102 年 12 月 31 日因公司債逾期失效之權益組成要素帳列「資本公積—發行公司債 之權益組成要素」金額為 626 仟元。

(十四)員工退休金

1.確定提撥計畫

本公司依「勞工退休金條例」訂定之員工退休計畫,係屬確定提 撥計畫。前述公司依員工每月薪資百分之六提撥退休金至勞工保 險局之個人專戶。依上述相關規定,本公司於民國 102 年度及 101 年度於個體綜合損益表認列為費用之退休金成本分別為 2,997 仟 元及 2,952 仟元。

2.確定福利計畫

本公司依「勞動基準法」訂定之員工退休計畫,係屬確定福利計畫。依該計畫之規定,員工退休金係按服務年資及退休前六個月之平均薪資計算。前述公司每月按員工薪資總額百分之二提撥員工退休金基金,交由勞工退休準備金監督委員會以該等委員會名義存入台灣銀行之專戶。

精算評價之主要假設列示如下:

	102年12月31日	101年12月31日	101年1月1日
折 現 率	2.000%	1.625%	1.750%
薪資預期增加率	2.000%	1.750%	1.750%
計畫資產之預期報酬率	2.000%	1.875%	2.000%

有關確定福利計畫所認列為費用之退休金成本金額列示如下:

	102	年度	101 年度		
當期服務成本	\$	99	\$	394	
利息成本		142		284	
計畫資產預期報酬		(171)		(253)	
合 計	\$	70	\$	425	

本公司因確定福利計畫所產生之義務列入個體資產負債表之金額 列示如下:

	102年12月31日		101年	年12月31日	101年1月1日	
已提撥確定福利義務 之現值	\$	(10,032)	\$	(10,017)	\$	(16,251)
計畫資產之公允價值		9,524		10,318		12,596
確定福利義務淨資產 (負債)	\$	(508)	\$	301	\$	(3,655)

本公司確定福利義務現值之變動列示如下:

	1	02 年度	101 年度		
期初確定福利義務	\$	10,017	\$	16,251	
當期服務成本		99		394	
利息費用		142		284	
精算損(益)		727		(4,379)	
福利支付數		(953)		(2,533)	
期末確定福利義務	\$	10,032	\$	10,017	
本公司計畫資產現值之變重	加列示	如下:			
		102 年度	1	01 年度	
期初計畫資產公允價值	\$	10,318	\$	12,596	
計畫資產預期報酬		171		253	
精算損失		(36)		(142)	
雇主提撥數		24		144	
福利支付數		(953)		(2,533)	
期末計畫資產公允價值	\$	9,524	\$	10,318	

本公司計畫資產整體預期報酬率係參考行政院勞工委員會勞工退休基金監理會對勞工退休基金之運用情形所作之估計,有關計畫資產之主要類別於報導期間結束日公允價值百分比資訊可至行政院勞工委員會勞工退休基金監理會網站之政府公開資訊專區查詢。

本公司民國 102 年度及 101 年度計畫資產之實際報酬分別為 135 仟元及 111 仟元。 本公司經驗調整之歷史資訊列示如下:

	102	年12月31日	101	年12月31日	101	年1月1日
確定福利義務現值	\$	(10,032)	\$	(10,017)	\$	(16,251)
計畫資產公允價值		9,524		10,318		12,596
提撥狀況	\$	(508)	\$	301	\$	(3,655)
計畫負債之經驗調整	\$	(727)	\$	4,379	\$	_
計畫資產之經驗調整	\$	(36)	\$	(142)	\$	_

本公司民國102年度及101年度認列精算(損)益於其他綜合損益分別為(763)仟元及4,237仟元。另本公司預計於民國102年12月31日報導日後之一年內對確定福利計畫提撥金額為144仟元。

(十五)權 益

1.普通股股本

	102	年12月31日	101	年12	月 31 日	101	年1月1日
額定股本	\$	600,000	\$	6	000,000	\$	600,000
已發行股本	\$	310,594	\$	2	73,561	\$	273,392
己發行股本變動如							
		股數(仟股)		股	本		資本公積
101年12月31日餘額	Ę	\$ 27,356		\$	273,561	\$	87,240
股票股利		828			8,282		_
可轉換公司債轉換	_	2,875			28,751		55,908
102年12月31日餘額	頁 _	\$ 31,059		\$	310,594	\$	143,148
101年1月1日餘額	_	\$ 27,339		\$	273,392	\$	86,916
可轉換公司債轉換	_	17			169		324
101年12月31日餘額	頁 	\$ 27,356		\$	273,561	\$	87,240
	_	·			·		

(1)本公司已發行之普通股每股面額為10元,每股享有一表決權及收取股利之權利。

- (2)本公司轉換公司債於民國 102 年度及 101 年度行使轉換權之金額分別為 84,001 仟元及 1,438 仟元,轉換為普通股股票 2,875 仟股及 16 仟股。
- (3)本公司於民國 102 年 12 月 27 日經董事會決議辦理現金增資, 每股面額 10 元,發行 4,000,000 股,上述增資案業經金融監督 管理委員會證券期貨局於民國 103 年 1 月 16 日金管證發字第 1020054664 號函核准申報生效,每股認購價格為 36 元,股款 144,000 仟元已全數收足,增資基準日訂為民國 103 年 3 月 4 日,並於民國 103 年 3 月 17 日完成登記。

2.資本公積

	102年	三12月31日	101 년	手12月31日	101	年1月1日
股本溢價	\$	39,000	\$	39,000	\$	39,000
公司債轉換溢價		98,508		37,538		37,185
認 股 權		3,426		3,426		3,426
已失效認股權		1,588		1,588		1,588
發行公司債之權益組 成要素		626		5,688		5,717
合 計	\$	143,148	\$	87,240	\$	86,916

依照法令規定,資本公積除填補公司虧損外,不得使用,但超過票面金額發行股票所得之溢額(包括以超過面額發行普通股、因合併而發行股票之股本溢價、公司債轉換溢價及庫藏股票交易等)及受領贈與所得產生之資本公積,每年得以實收資本之一定比率為限撥充資本或以現金分配,惟因採用權益法之投資、員工認股權及認股權所產生之資本公積,不得作為任何用途。

3.保留盈餘及股利

	法 公	定盈餘 積	特 公	別盈餘 積	未	分配盈餘	<u></u>	計
101年12月31日餘額	\$	23,806	\$	38,609	\$	162,966	\$	225,381
本期淨利		_		_		76,112		76,112
本期其他綜合損益		_		_		(550)		(550)
提列法定盈餘公積		8,773		_		(8,773)		_
現金股利		_		_		(52,452)		(52,452)
股票股利		_		_		(8,282)		(8,282)
102年12月31日餘額	\$	32,579	\$	38,609	\$	169,021	\$	240,209
	法公	定盈餘 積	特公	別盈餘 積	未	分配盈餘	<u></u>	計
101年1月1日餘額	\$	16,025	\$	38,609	\$	128,343	\$	182,977
本期淨利		_		_		88,098		88,098
本期其他綜合損益		_		_		3,517		3,517
提列法定盈餘公積		7,781		_		(7,781)		_
提列法定盈餘公積現金股利		7,781		_ _		(7,781) (49,211)		- (49,211)

- (1)依據本公司章程規定公司年度決算如有盈餘時,應行提繳稅 款,彌補以往年度虧損,次提百分之十為法定盈餘公積,必 要時得依主管機關規定提列特別盈餘公積,當年度如尚有盈 餘時,以當年度餘額提員工紅利不低於百分之四,董事、監 察人酬勞不高於百分之四,其餘方得由董事會擬具分配方案, 經股東會決議後分派之。
- (2)本公司之股利政策,係以維持公司長期財務結構之健全與穩 定公司未來年度業務持續成長需要,以創造股東最大收益, 依下列方式辦理:

- A.各年度股利分派之總數,每年現金股利應不得低於股利總額百分之二十,惟遇有年度盈餘及資金充裕時,將提高發放比率。
- B.若公司有重大投資或發展政策時,得全數以股票股利發放 之。
- (3)依民國 101 年 1 月修訂之公司法之規定,法定盈餘公積應繼續提撥至其總額達實收股本總額為止。法定盈餘公積得用以彌補虧損;公司無虧損者,得以法定盈餘公積超過實收股本百分之二十五之部分按股東原有股份之比例發給新股或現金。
- (4)本公司分配盈餘時,必須依法令規定就當年底之股東權益減項(如國外營運機構財務報表換算之兌換差額、現金流量避險準備及權益工具投資等,惟庫藏股票除外)提列特別盈餘公積後方得以分配,嗣後業主權益減項數額迴轉時,得就迴轉金額分配盈餘。
- (5)依金管會於民國 101 年 4 月 6 日發布之金管證發字第 1010012865 號函令規定,首次採用 IFRSs 時,應就帳列股東權益項下之未實現重估增值及累積換算調整數(利益),因選擇適用國際財務報導準則第 1 號豁免項目而轉入保留盈餘部分,分別提列相同數額之特別盈餘公積;但轉換日因首次採用 IFRSs 產生之保留盈餘增加數不足提列時,得僅就因轉換採用 IFRSs 產生之保留盈餘增加數予以提列。嗣後因使用、處分或重分類相關資產時,得就原提列特別盈餘公積之比例予以迴轉分派盈餘。本公司帳列未實現重估增值轉入未分配盈餘之金額為 38,609 仟元,已提列相同數額之特別盈餘公積。截至民國 102 年 12 月 31 日上項因首次採用 IFRSs 提列之特別盈餘公積餘額為 38,609 仟元。

- (6)本公司民國 102 年度及 101 年度應付員工紅利估列金額分別為 2,720 仟元及 3,158 仟元;應付董監酬勞估列金額分別為 2,720 仟元及 3,158 仟元。前述員工紅利及董監酬勞係按稅後 淨利(已扣除員工分紅及董監酬勞之金額)之 4%計算。年度終了後,本個體財務報告通過發布日前經董事會決議之發放金額有重大變動時,該變動調整原提列年度費用,本個體財務報告通過發布日後若金額仍有變動,則依會計估計變動處理,於次一年度調整入帳。如股東會決議採股票發放員工紅利,股票紅利股數按決議分紅之金額除以股票公允價值決定。就計算民國 101 年度及 100 年度股票紅利股數而言,股票公允價值係指股東會決議目前一日之收盤價(考量除權除息之影響後)。
- (7)分配未分配盈餘時,除屬非中華民國境內居住者之股東外, 其餘股東可獲配按股利分配日之稅額扣抵比率計算之股東可 扣抵稅額。
- (8)本公司分別於民國 102 年 6 月 21 日及 101 年 6 月 19 日之股 東常會決議通過民國 101 年度及 100 年度之盈餘分配案如 下:

	101 年 度			100 年 度				
	盈	於分配	每股	散利(元)	盈	盤餘分配	每股	:股利(元)
法定盈餘公積	\$	8,773	\$	_	\$	7,781	\$	_
現金股利		52,452		1.90		49,211		1.80
股票股利		8,282		0.30		_		_

另上述股東常會分別決議配發民國 101 年度及 100 年度員工 現金紅利 3,158 仟元及 2,801 仟元,以及董事酬勞 3,158 仟元 及 2,801 仟元。前述決議配發員工紅利及董事酬勞之金額與本公司於民國 102 年 3 月 22 日及 101 年 3 月 16 日之董事會決議並無差異 並分別於民國 101 年度及 100 年度以費用列帳。上述有關本公司員工紅利及董事酬勞相關資訊可自公開資訊觀測站查詢。

4.首次採用 IFRSs 應提列之特別盈餘公積

本公司首次採用 IFRSs 所應提列之特別盈餘公積如下:

平公司自认36周1	1.1792	カール 応い たり しく	-1寸人	四皿 欧 石 俱 5	ΛΗ ` :	
	102年	月12月31日	101	年12月31日	101	年1月1日
特別盈餘公積	\$	38,609	\$	38,609	\$	38,609
5.其他權益項目						
				國外營運村 算之	幾構則 .兌換	†務報表換 差額
102年1月1日館	襐			\$		12,983
換算國外營運機構 兌換差額	構財務	S報表所產生	主之			1,372
換算國外營運機構 之相關所得稅	構淨資	產所產生和	引益			(233)
102年12月31日	1餘額			\$		14,122
				國外營運相 算之	幾構則	大務報表換 差額
101年1月1日飯	襐			\$		15,950
換算國外營運機構 兌換差額	構財務	発表所産 生	上之			(3,574)
換算國外營運機 之相關所得稅	構淨資	產所產生和	引益			607
101年12月31日	餘額			\$		12,983
(十六)每股盈餘						
		10	2年	度	10	1年度
基本每股盈餘		\$		2.52	\$	3.14
稀釋每股盈餘		\$		2.51	\$	2.80
		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		·	·	·

1.基本每股盈餘

用以計算基本每股盈餘之盈餘及普通股加權平均股數如下:

	102 年度	10)1 年度
歸屬於母公司業主之淨利 (仟元)	\$ 76,112	\$	88,098
計算基本每股盈餘之普通股加權平均股數(仟股)	30,233		28,093
基本每股盈餘(元)	\$ 2.52	\$	3.14

2.稀釋每股盈餘

用以計算稀釋每股盈餘之盈餘及普通股加權平均股數(仟股)如下:

	10	02 年 度	10	1 年 度
歸屬於母公司業主之淨利 (仟元)	\$	76,112	\$	88,098
計算基本每股盈餘之普通股加權平均股數(仟股)		30,233		28,093
具稀釋作用潛在普通股(仟 股)				
員工分紅費用		66		106
可轉換公司債		_		3,248
計算稀釋每股盈餘之普通股加權平均股數(仟股)		30,299		31,447
稀釋基本每股盈餘(元)	\$	2.51	\$	2.80

計算每股盈餘時,無償配股之影響業已追溯調整,該無償配股基準日訂於民國 102 年 8 月 4 日。因追溯調整,民國 101 年度基本及稀釋每股盈餘分別由 3.21 元及 2.86 元減少為 3.14 元及 2.80 元。

(十七)營業收入

本公司所產生收入之分析如下:

	10	2 年 度	10	01 年 度
商品銷售收入	\$	728,221	\$	860,387
銷貨退回		(1,357)		(817)
銷貨折讓		(3,877)		(4,313)
合 計	\$	722,987	\$	855,257
(十八)其他收入		_		
	10	2 年 度	10	01 年 度
利息收入	\$	337	\$	482
租金收入		239		284
壞帳轉回利益		731		_
合 計	\$	1,307	\$	766
(十九)其他利益及損失				
	10	2 年 度	10	11 年 度
處分不動產、廠房及設備利 益	\$	64	\$	71
透過損益按公允價值衡量之 金融資產利益		188		_
外幣兌換利益(損失)		3,719		(1,920)
透過損益按公允價值衡量之 金融資產損失		_		(160)
什項收入		7,543		4,745
什項支出		(1,800)		(2,508)
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	\$	9,714	\$	228

什項收入包含工業局專案補助款及沖銷逾期應付款利益等。

(二十)財務成本

	102	年 度	101	年 度
利息費用	\$	996	\$	1,932

(廿一)所得稅

1.認列於損益之所得稅

所得稅費用與會計利潤之調節如下:

	10	2 年 度	101	年 度
稅前淨利按法定稅率計算之 所得稅	\$	16,099	\$	18,595
按稅法規定剔除項目之所得 稅影響數		(9,466)		(11,689)
以前年度所得稅低(高)估數		469		(627)
未分配盈餘加徵10%所得稅		1,822		2,082
所得稅費用	\$	8,924	\$	8,361
當年度認列於損益之所得稅	党費用網	組成如下:		
	10	2 年 度	101	年 度
當期所得稅費用	\$	8,924	\$	8,361
遞延所得稅淨變動數		9,509		11,347
認列於損益之所得稅費用	\$	18,433	\$	19,708

本公司適用中華民國所得稅法之個體所適用之稅率為 17%, 菲律 賓分公司所適用之稅率為 30%。

由於民國 103 年度股東會盈餘分配情形尚具不確定性, 故民國 102 年度未分配盈餘加徵 10%所得稅之潛在所得稅後果尚無法可靠決定。

認列於其他綜合損益之所得稅:

	10	02 年 度	101 年 度		
國外營運機構財務報表換算 之兌換差額	\$	233	\$	(607)	
確定福利計劃精算(損)益		(129)		720	
採權益法投資利益		17		_	
認列於其他綜合損益之所得 稅費用(利益)	\$	121	\$	113	

2.遞延所得稅

個體資產負債表中之遞延所得稅資產及負債分析如下:

		102 4	年12月	31日	101	年12月	31日	101 4	年1月	11日
遞延所得稅資產										
呆帳超限		\$		407	\$		448	\$		488
存貨跌價損失				325			212			378
未實現兌換損	失			_			69			_
聯屬公司間未	實現利			66			125			85
員工帶薪假				203			27			125
有待法律程序; 短期負債準	決定之 備			206			_			_
合 計		\$	1	,207	\$		881	\$	1	1,076
		102 4	年12月	31日	101	年12月	31日	101 -	年1月	11日
遞延所得稅負債										
未實現兌換利	益	\$		81	\$		_	\$		49
退休金費用			1	,001			1,130			421
權益法投資利益	益		22	2,065		12	2,295		1	1,083
國外營運機構! 表換算之兌	財務報 換差額		2	2,893		2	2,660		3	3,267
合 計		\$	26	5,040	\$	10	5,085	\$	۷	1,820
				102		年	度			
	期初	餘額		列於 ()益	認夠綜合	刊於其他 合(損)益	其	他	期末	卡餘額
暫時性差異				_						_
呆帳超限	\$	448	\$	(41)	\$	_	\$	_	\$	407
存貨跌價損失		212		113		_		_		325
未實現兌換損 失		69		(69)		_		_		_
聯屬公司間未 實現利益		125		(59)		_		_		66
員工帶薪假		27		176		_		_		203
有待法律程序 決定之短期 負債準備		_		206		_		_		206
遞延所得稅資產	\$	881	\$	326	\$	_	\$	_	\$	1,207

暫時性差異										
未實現兌換利 益	\$	_	\$	(81)	\$	_	\$	_	\$	(81)
退休金費用		(1,130)		_		129		_		(1,001)
權益法投資利 益		(12,295)		(9,754)		(17)		1		(22,065)
國外營運機構 財務報表換 算之兌換差 額		(2,660)		-		(233)		_		(2,893)
遞延所得稅負債	\$	(16,085)	\$	(9,835)	\$	(121)	\$	1	\$	(26,040)
				101		年	度			
	期	初餘額		忍列於 損)益		剂於其他 合(損)益	其	他	期	末餘額
暫時性差異										
呆帳超限	\$	488	\$	(40)	\$	_	\$	_	\$	448
存貨跌價損失		378		(166)		_		_		212
未實現兌換損 失		_		69		_		_		69
聯屬公司間未 實現利益		85		40		_		_		125
員工帶薪假		125		(98)		_		_		27
遞延所得稅資產	\$	1,076	\$	(195)	\$		\$		\$	881
暫時性差異										
未實現兌換利 益	\$	(49)	\$	49	\$	_	\$	_	\$	_
退休金費用		(421)		11		(720)		_		(1,130)
權益法投資利 益		(1,083)		(11,212)		_		_		(12,295)
國外營運機構 財務報表換 算之兌換差 額		(3,267)		_		607		_		(2,660)
遞延所得稅負債	\$	(4,820)	\$	(11,152)	\$	(113)	\$	_	\$	(16,085)
3.兩稅合一相關	시資	訊:								
		102 生	₣ 12	月 31 日	101	年12月	31 日	101 4	年1.	月1日
可扣抵稅額帳	与餘	額 \$		14,761	\$	15	,901	\$	1	4,636

	102 年度(預計)	101 年度(實際)
稅額扣抵比率	8.73%	12.03%

4.未分配盈餘相關資訊

 102年12月31日
 101年12月31日
 101年1月1日

 87年度以後
 \$ 169,021
 \$ 162,966
 \$ 128,343

依所得稅法規定,本公司分配屬於87年度(含)以後之盈餘時,本國股東可按股利分配日之稅額扣抵比率計算可獲配之股東可扣抵稅額。由於實際分配予股東之可扣抵稅額,應以股利分配日之股東可扣抵稅額帳戶餘額為準,因此本公司預計民國102年度盈餘分配之稅額扣抵比率可能與將來實際分配予股東時所適用之稅額扣抵比率有所差異。

5.所得稅核定情形

本公司截至民國 100 年度止之所得稅申報案件,業經稅捐稽徵機 關核定在案。

(廿二)費用性質之額外資訊

本公司本期發生之員工福利、折舊、折耗及攤銷費用功能別彙總如下:

功能別	1	02 年 度	Ĕ	101 年 度				
性質別	屬於營業 成 本 者	屬於營業費 用 者	合 計	屬於營業 成 本 者	屬於營業費 用 者	合 計		
員工福利費用	\$ 30,790	\$ 49,994	\$ 80,784	\$ 28,420	\$ 47,605	\$ 76,025		
薪資費用	24,049	43,035	67,084	21,625	40,301	61,926		
勞健保費用	2,639	3,696	6,335	2,518	3,725	6,243		
退休金費用	1,248	1,819	3,067	1,330	2,047	3,377		
其他員工福利費用	2,854	1,444	4,298	2,947	1,532	4,479		
折舊費用	13,420	2,116	15,536	15,114	2,326	17,440		
攤銷費用	_	1,250	1,250	_	493	493		

(廿三)資本風險管理

本公司基於現行營運產業特性及未來公司發展情形,並且考量外部環境變動等因素,規劃本公司未來期間所需之營運資金(包括研究發展費用及債務償還等)需求,以保障本公司之永續經營,能回饋股東且同時兼顧其他利益關係人之利益,並維持最佳資本結構以提升股東價值。整體而言,本公司採用審慎之風險管理策略。

(廿四)金融工具

1.金融工具之種類

	102年	三12月31日	101年	三12月31日	101年1月1日	
金融資產						
現金及約當現金	\$	140,927	\$	125,429	\$	199,068
應收票據及帳款 (含關係人)		115,474		143,955		106,222
其他應收款 (含關係人)		5,193		47,623		3,237
存出保證金		1,736		2,585		1,869
無活洛市場之債券 投資一流動		3,111		_		5,485
透過損益按公允價 值衡量之金融資 產一非流動		_		_		160
合 計	\$	266,441	\$	319,592	\$	316,041
金融負債						
短期借款	\$	31,777	\$	4,216	\$	6,216
應付票據及帳款(含 關係人)		39,112		87,300		70,546
其他應付款(含關係 人)		30,272		35,234		35,186
應付公司債		_		94,501		93,063
存入保證金		1,598		1,598		1,548
合 計	\$	102,759	\$	222,849	\$	206,559
				·		·

2.財務風險管理目的

本公司財務風險管理目標 係為管理與營運活動相關之匯率風險、利率風險、信用風險及流動風險。為降低相關財務風險,本公司致力於辨認、評估並規避市場之不確定性,以降低市場變動對本公司財務績效之潛在不利影響。

本公司之重要財務活動,係經董事會依相關規範及內部控制制度 進行覆核。於財務計劃執行期間,本公司必須恪遵關於整體財務 風險管理及權責劃分之相關財務操作程序。

3.市場風險

本公司主要暴露於外幣匯率變動及利率變動等市場風險,並使用某些衍生金融工具以管理相關風險。

(1)外幣匯率風險

本公司部分營運活動及國外營運機構淨投資係以外幣進行交易,因此產生外幣匯率風險。為避免因匯率變動造成外幣資產價值減少及未來現金流量之波動,本公司使用短期借款及衍生金融工具(包含遠期換匯合約)來規避匯率風險。此類衍生金融工具之使用,可協助本公司減少但仍無法完全排除外幣匯率變動所造成之影響。

本公司舉借短期借款之目的,主要係為美元應收帳款從事自然避險。由於本公司之應收帳款主要為美元,美元短期借款的使用可自然規避美元應收帳款因外幣匯率變動所產生之風險。

由於國外營運機構淨投資係為策略性投資,是故本公司並未對其進行避險。

有關本公司受重大匯率波動影響之外幣資產及負債資訊如下:

102 年 12 月 31 日

		102	十 12 万	31 H	
	外 幣	匯 率	帳面金額	敏 感	度分析
	\1 1li		(新台幣)	變動幅度	損益影響
金融資產					
貨幣性項目					
美金	\$ 4,989	29.81	\$ 148,731	10%	\$ 14,873
日幣	44,614	0.28	12,492	10%	1,249
金融負債					
貨幣性項目					
美金	1,401	29.81	41,771	10%	4,177
		101	左 12 日	21 □	
		101	年 12 月	31 日	
	外 幣	匯 率	帳面金額 (新台幣)		度分析
Λ = 1 ½ →				變動幅度	損益影響
金融資產					
貨幣性項目		•••	4=000=	100/	4=000
美 金	\$ 6,194	29.04	\$ 179,885	10%	\$ 17,989
日幣	51,238	0.34	17,421	10%	1,742
金融負債					
貨幣性項目	1.264	20.04	20.612	1007	2.061
美 金	1,364	29.04	39,613	10%	3,961
		101	年 1 月	1 日	
	外 幣	匯 率	帳面金額	敏 感	度 分 析
	भ वि	<u></u> 连	(新台幣)	變動幅度	損益影響
金融資產					
貨幣性項目					
美 金	\$ 3,060	30.27	\$ 92,638	10%	\$ 9,264
日幣	38	0.39	15	10%	2
金融負債					
貨幣性項目					
美金	988	30.27	29,905	10%	2,991

(2)利率風險

利率風險係指由於市場利率之變動所造成金融工具公允價值 變動之風險。本公司之利率風險,主要係來自於固定收益投資。

本公司之固定收益投資均為固定利率且以攤銷後成本衡量,故利率變動不會影響未來現金流量。

4.信用風險管理

信用風險係指交易對方違反合約義務並對本公司造成財務損失之風險。本公司之信用風險,主要係來自於營運活動產生之應收款項,及投資活動產生之銀行存款、固定收益投資及其他金融工具。營運相關信用風險與財務信用風險係分別管理。

(1)營運相關信用風險

為維持應收帳款的品質,本公司已建立營運相關信用風險管理之程序。個別客戶的風險評估係考量包括該客戶之財務狀況、信評機構評等、本公司內部信用評等、歷史交易紀錄及目前經濟狀況等多項可能影響客戶付款能力之因素。本公司亦會在適當時機使用某些信用增強工具,如預付貨款等,以降低特定客戶的信用風險。

截至民國 102 年 12 月 31 日、101 年 12 月 31 日及 101 年 1 月 1 日,前十大客戶之應收帳款餘額占本公司應收帳款餘額之百分比分別為 81%、85%及 82%,其餘應收帳款之信用集中風險相對並不重大。

(2)財務信用風險

銀行存款、固定收益投資及其它金融工具之信用風險,係由本公司財務部門衡量並監控。由於本公司之交易對象及履約他方均係信用良好之銀行及具投資等級及以上之金融機構、公司組織及政府機關,無重大之履約疑慮,故無重大之信用風險。

5.流動性風險管理

本公司管理流動性風險之目標,係為維持營運所需之現金及約當 現金、高流動性之有價證券及足夠的銀行融資額度等,以確保本 公司具有充足的財務彈性。 下表係按到期日及未折現之到期金額彙總列示本公司已約定還款期間之金融負債分析:

		102 年 12 月 31 日									
	短	意於1年	2~	-3 年	4~5	年	5年	以上	合	計	
非衍生金融負債											
短期借款	\$	31,777	\$	_	\$	_	\$	_	\$	31,777	
應付票據及帳 款(含關係人)		39,112		_		_		_		39,112	
其他應付款		30,272		_		_		_		30,272	
存入保證金		_		1,598		_				1,598	
合計	\$	101,161	\$	1,598	\$	_	\$		\$	102,759	
				101	年 12	月(31 日				
	短	意於1年	2~	-3 年	4~5	年	5年	以上	合	計	
非衍生金融負債											
短期借款	\$	4,216	\$	_	\$	_	\$	_	\$	4,216	
應付票據及帳 款(含關係人)		87,300		_		_		_		87,300	
其他應付款		35,234		_		_		_		35,234	
應付公司債		94,501		_		_		_		94,501	
存入保證金		_		1,598		_				1,598	
合計	\$	221,251	\$	1,598	\$	_	\$		\$	222,849	
				101	年 1	月	1 日				
	短	放1年	2~	-3 年	4~5	年	5年	以上	合	計	
非衍生金融負債											
短期借款	\$	6,216	\$	_	\$	_	\$	_	\$	6,216	
應付票據及帳 款(含關係人)		70,546		_		_		_		70,546	
其他應付款(含 關係人)		35,186		_		_		_		35,186	
應付公司債		_		93,063		_		_		93,063	
存入保證金				1,548						1,548	
合計	\$	111,948	\$	94,611	\$	_	\$		\$	206,559	

6.金融工具之公允價值

(1)金融工具之公允價值

	10	02年12	2月31	日	101年12月31日				101年1月1日			
	帳面	金額	公允	:價值	帳面	ī 金額	公允	2價值	帳面	面金額	公分	元 價值
金融資產				_								
透過損益按公允 價值衡量之金 融資產	\$	_	\$	_	\$	_	\$	_	\$	160	\$	160
金融負債												
應付公司債(含一 年內到期部份)		-		_	Ģ	94,501	9	94,501		93,063		93,063

(2)衡量公允價值所採用之評價技術及假設

本公司金融資產及金融負債公允價值之決定,係使用下列方法及假設為之:

- A.上述金融商品不包含現金及約當現金、應收款項、其他應收款、無活絡市場之債券投資、短期借款及應付款項。此類金融商品之到期日甚近,其帳面價值應屬估計公允價值之合理基礎。上述金融商品亦不包含存出保證金及存入保證金,因其返還日期具不確定性,故以其在資產負債表上帳面價值估計公允價值。
- B.衍生性金融商品之公允價值,係採用評價方法估計。本公司 採用評價方法所使用之估計及假設,與市場參與者於金融商 品訂價時用來作為估計及假設之資訊來源一致,該資訊為本 公司可取得者。
- C.應付公司債係以其預期現金流量之折現值估計公允價值,其 帳面價值約當公允價值。

(3)認列於個體資產負債表之公允價值衡量

下表係提供原始認列後以公允價值衡量之金融工具的相關分析, 並以公允價值之可觀察程度分為第一至第三等級。

- A.第一等級公允價值衡量係指以來自活絡市場相同資產或負債之公開報價(未經調整)。
- B.第二等級公允價值衡量係指除第一等級之公開報價外,以屬 於該資產或負債直接(亦即價格)或間接(亦即由價格推導而 得)可觀察之輸入值推導公允價值。
- C.第三等級公允價值衡量係指評價技術係非以可觀察市場資料 為基礎之資產或負債之輸入值(不可觀察之輸入值)推導公允 價值。

	101 年 1 月 1 日								
	第一	等級	第二	等級	第三	等級	合	計	
透過損益按公允價值 衡量之金融資產									
衍生金融資產	\$	_	\$	160	\$	_	\$	160	

本年度無第一級與第二級公允價值衡量間移轉之情形。

七、關係人交易

(一)營業收入

關係人類別	102	2 年 度	10	01 年 度
子公司	\$	463	\$	5,157
主要管理階層控制個體		2		24,760
合 計	\$	465	\$	29,917

本公司銷貨予上列關係企業之價格,係依原物料或製成品成本加計約定毛利計價,以反映銷售之數量及與該關係人之關係。

(二)進 貨

關係人類別	10	02 年 度	10	01 年 度
子公司	\$	41,492	\$	45,765
主要管理階層控制個體		_		11,696
合 計	\$	41,492	\$	57,461

本公司向上列關係企業進貨之價格,係以原料成本或商品成本為 基礎加計約定毛利計算,以反映購買之數量及與該關係人之關 係。

(三)應收關係人款項

關係人類別	102年	12月31日	101年	12月31日	101年	1月1日
應收帳款						
子公司	\$	135	\$	403	\$	256
主要管理階層控制個體		_		5		601
合 計	\$	135	\$	408	\$	857
其他應收款						
子公司	\$	1,286	\$	_	\$	46
主要管理階層控制個體		35		_		3
合 計	\$	1,321	\$	_	\$	49

本公司除銷售予國外之子公司,為配合其在國外營運需要,按其資金狀況決定收款期間外,其他則與一般客戶無顯著不同。

民國 102 及 101 年度應收關係人款項並未提列呆帳費用。

(四)應付關係人款項

102年	12月31日	101年	12月31日	101 4	年1月1日
\$	1,680	\$	629	\$	3,503
	_		_		1,019
\$	1,680	\$	629	\$	4,522
\$	_	\$	_	\$	2,940
	\$	\$ 1,680 — \$ 1,680	\$ 1,680 \$ - \$ 1,680 \$	\$ 1,680 \$ 629 \$ 1,680 \$ 629	\$ 1,680 \$ 629 \$

本公司向子公司進貨付款期限為月結 30 天,其他則與一般廠商 無顯著不同。

(五)背書保證

關係人類別	102年	102年12月31日		101年12月31日		101年1月1日	
子公司	\$	234,246	\$	265,065	\$	359,193	

(六)對關係人租賃收益情形

關係人類別	102	2年度	101 年 度		
子 公 司	\$	11	\$	11	
主要管理階層控制個體		269		273	
合 計	\$	280	\$	284	

本公司出租辦公室及倉庫予子公司及主要管理階層控制個體,交易條件分別為預收租金及按月收取租金。截至民國 102 年 12 月 31 日止預收租金為 8 仟元帳列預收款項項下,尚未收取之租金為 9 仟元帳列其他應收款—關係人項下。

(七)對關係人租賃支出情形

關係人類別	102	年 度	10	1 年 度
主要管理階層控制個體	\$	150	\$	200
其他關係人		180		
合 計	\$	330	\$	200

本公司向主要管理階層控制個體及其他關係人承租辦公室及停車位,交易條件分別為逐月開立票據及按月支付現金。截至民國 102 年 12 月 31 日止並無應付租金。

(八)捐贈支出

關係人類別	102	2年度	101 年 度		
主要管理階層控制個體	\$	650	\$	_	

本公司於民國 102 年度捐贈 650 仟元予主要管理階層控制個體作 為文教活動支出用途。

(九)主要管理階層薪酬

	10	02 年 度	10	01 年 度
短期員工福利	\$	5,829	\$	5,347

八、質押之資產

截至民國 102 年 12 月 31 日、101 年 12 月 31 日及 101 年 1 月 1 日,本公司資產提供擔保明細如下:

				帳	面	價	值	
名	稱	擔保用途	102年	12月31日	101年	12月31日	101年	1月1日
土	地	金融機構借款	\$	83,593	\$	83,593	\$	83,593
房屋	及建築	金融機構借款		57,628		60,389		63,029
	絡市場之債券投資 備償戶	金融機構借款		3,111		_		5,485
合	計		\$	144,332	\$	143,982	\$	152,107

九、重大或有負債及未認列之合約承諾

- (一)本公司截至民國 102 年 12 月 31 日已開立未使用之信用狀金額分 別為新台幣 1,376 仟元及美金 65 仟元。
- (二) 截至民國 102 年 12 月 31 日止,本公司因借款及經濟部工業局專案所簽發之保證票據分別為 820,518 仟元及 3,180 仟元。

十、重大之災害損失

無。

十一、重大之期後事項

有關本公司辦理現金增資事宜,請詳附註六(十五)、1.(3)。

十二、<u>其</u>他

前本公司業務專員,以不實之事項登載於其業務上所職掌之文書,致 生損害於本公司;又偽造出貨紀錄向本公司詐取貨品價差等犯行,本 公司已提起刑事詐欺等告訴,經臺灣高雄地方法院 99 年度偵字第 24099 號偵查終結,該員工係犯刑法第 216、215 條之行使業務登載不 實罪及同法第 342 條之背信罪,然其行為所造成之損害尚非重大,認 以不起訴處分,本公司提請再議後,經檢察官提起公訴(100 年度偵續 字第 371 號),而臺灣高雄地方法院於民國 101 年 11 月 15 日依 101 年度易字第 814 號判決該員共同犯背信罪成立。另本公司於民國 97 年 11 月將該員工記三大過後免職,該員工不服,另以本公司為被告,向臺灣高雄地方法院提起確認僱傭關係存在之民事訴訟,經法院第一審 98 年度勞訴字第 28 號判決本公司敗訴,本公司再上訴,第二審臺灣高等地方法院高雄分院 99 年度勞上字第 5 號判決本公司敗訴。民國 101 年 12 月 18 日經臺灣高等法院高雄分院 101 年度勞上更(一)字第 3 號判決確認僱傭關係存在,本公司聲明上訴,現由最高法院審理中。

十三、附註揭露事項

(一)重大交易事項:

編號	項	Ħ	說明
1	資金貸與他人。		無
2	為他人背書保證。		附表一
3	期末持有有價證券情形。		附表二
4	累積買進或賣出同一證券之金額 元或實收資本額 20%以上。	頁達新台幣三億	無
5	取得不動產之金額達新台幣三億額 20%以上。	意元或實收資本	無
6	處分不動產之金額達新台幣三億額 20%以上。	意元或實收資本	無
7	與關係人進、銷貨交易金額達新 實收資本額 20%以上。	析台幣一億元或	無
8	應收關係人款項達新台幣一億元 20%以上。	元或實收資本額	無
9	從事衍生工具交易。		無
10	被投資公司資訊。		附表三

(二)轉投資事業相關資訊:

- 1.對被投資公司直接或間接具有重大影響或控制者,其名稱、所 在地區、主要營業項目、原始投資金額、期末持股情形、本 期損益及認列之投資損益:附表三。
- 2.轉投資事業重大交易事項:無。

(三)大陸投資資訊:

- 1.大陸被投資公司名稱、主要營業項目、實收資本額、投資方式、資金匯出入情形、持股比例、投資損益、期末投資帳面價值、已匯回投資收益及赴大陸地區投資限額: 附表四。
- 2.與大陸被投資公司直接或間接經由第三地區所發生之重大交易事項,暨其價格、付款條件、未實現損益及其他有助於瞭解大陸投資對財務報告影響之有關資料:無。

十四、首次採用個體財務報告會計準則

本公司轉換至個體財務報告會計準則日為民國 101 年 1 月 1 日。轉換至個體財務報告會計準則後,對本公司個體資產負債表暨個體綜合損益表之影響如下:

(一)國際財務報導準則第1號之豁免

國際財務報導準則第 1 號「首次採用國際財務報導準則」係說明當本公司首次採用個體財務報告會計準則作為編製財務報告之基礎時應遵循之程序。依據該準則,本公司須建立個體財務報告會計準則下之會計政策,且應追溯適用該等會計政策以決定轉換至個體財務報告會計準則日(民國 101 年 1 月 1 日)之初始資產負債表 惟該準則亦對追溯適用之原則提供若干豁免選項。本公司所採用之主要豁免選項彙總說明如下:

1.認定成本

本公司於轉換至個體財務報告會計準則日,帳列不動產、廠房及設備項下之土地係採用先前一般公認會計原則之重估價值作為重估價日之認定成本,餘不動產、廠房及設備係依個體財務報告會計準則採成本模式衡量,並追溯適用相關規定。

2. 員工福利

本公司選擇將與員工福利計畫有關之所有累積精算損益於轉換至個體財務報告會計準則日一次認列於保留盈餘。

此外,本公司亦選擇適用國際財務報導準則第 1 號所提供之 豁免揭露規定,自轉換至個體財務報告會計準則日起各會計 期間推延決定之金額,揭露確定福利義務現值、計畫資產公 允價值及計畫盈虧,以及經驗調整資訊之規定。

(二)轉換至個體財務報告會計準則之影響

轉換至個體財務報告會計準則後,對本公司民國 101 年 1 月 1 日(轉換至個體財務報告會計準則日)及 12 月 31 日之個體資產負 債表暨民國 101 年度個體綜合損益表之影響如下:

1.民國 101 年 1 月 1 日(轉換至個體財務報告會計準則日)個體

資產負債表項目之調節

衡量差異	目 說明
流動資產	
現金及約當現金 \$ 199,068 \$ - \$ - \$ 199,068 現金及約]當現金
應收票據淨額 2,930 - 2,930 應收票指	浮額
應收帳款淨額 102,435 - 102,435 應收帳	(淨額
應收帳款-關係人 857 857 應收帳 淨額 人淨額	
其他應收款 3,188 - 3,188 其他應收	(款
其他收款—關係人	(一關係
存貨淨額 71,304 - 71,304 存貨淨額	THE STATE OF THE S
預付款項 15,311 15,311 預付款I	Į
遞延所得稅資產一 822 - (822) - 遞延所行 流動	身稅資產 4
受限制資產-流動 5,485 5,485 無活絡下 券投資	ī場之債 壬一流動
其他流動資產 1 1 1 其他流動	 資產
流動資產合計 401,450 — (822) 400,628 流動資產	合計
非流動資產非流動資產非流動資產	
指益之金融資產	在按公允 厅量之金 ≦一非流
固定資產淨額 214,301 - (7,793) 206,508 不動產、 備	廠房及設 1,2
無形資產 208 - 279 487 無形資產	2
採權益法之長 期 185,700 (139) (501) 185,060 採用權差 股權投資 資	拉法之投 10
遞延所得稅資產 - 125 951 1,076 遞延所行	身稅資產 4,5,6
預付設備款 - 12,205 12,205 預付設備	款 1
存出保證金 1,869 - - 1,869 存出保證	金
遞延費用 4,691 - (4,691) - 遞延費用	2
非流動資產合計 406,929 (14) 450 407,365 非流動資	f產合計
資産總計 \$ 808,379 \$ (14) \$ (372) \$ 807,993 資産	總計

我國一般公認會計原則				轉換之	影響			個體財	務報告會計準	崖則		
項	項 目 金 額		額	認 列 及 表達差異 衡量差異			金	額	項	目	- 說明	
流動負債					·					流動負債		
短期借款	欠	\$	6,216	\$	_	\$	_	\$	6,216	短期借款		
應付票據	慰		29,846		_		_		29,846	應付票據		
應付帳款	欠		36,178		_		_		36,178	應付帳款		
應付帳款	次一關係人		4,522		_		_		4,522	應付帳請 人	大一關係	
應付所得	尋稅		5,827		_		_		5,827	當期所得	稅負債	
應付費用	1		21,282		_		(21,282)		_			2
其他應作	寸款		10,964		_		21,282		32,246	其他應付	款	2
其他應位 人	寸款 一關係		2,940		_		_		2,940	其他應付 係人	款一關	
預收款項	頁		2,666		_		_		2,666	預收款項		
員工福禾	刊負債準備		_		738		_		738	員工福利 備一流		8
其他流動	力負債		293						293	其他流動	負債	
流動負債	責合計		120,734		738				121,472	流動負債	合計	
非流動負債	Ę									非流動負債		
應付公司	司 債		93,063		_		_		93,063	應付公司	債	
遞延所得 非流動	寻稅負債— 力		1,003		3,688		129		4,820	遞延所得 一所得		5,6
土地增值	直稅準備		24,200		_		_		24,200	遞延所得 一土地	稅負債 增值稅	7
遞延貸項 司間和	頁一聯屬公 刊益		501		_		(501)		_			10
應計退休	木金負債		6,134		(2,479)		_		3,655	應計退休	金負債	9
存入保證	登金		1,548		_		_		1,548	存入保證	金	
非流動負	負債合計		126,449		1,209		(372)		127,286	非流動負	債合計	
負 債	合 計		247,183		1,947		(372)		248,758	負債合計		
股 本										股本		
普通股股	及本	\$	273,392	\$		\$		\$	273,392	普通股股	本	
資本公積			90,157		(3,241)				86,916	資本公積		3
保留盈餘										保留盈餘		
法定盈餘	余公積		16,025		_		_		16,025	法定盈餘	公積	
特別盈餘	余公積		_		38,609		_		38,609	特別盈餘	公積	
未分配盔	盘餘		123,796		4,547				128,343	未分配盈	餘	11
保留盈餘	余合計		139,821		43,156				182,977			
股東權益非	其他項目									權益其他項	目	
累積換算	拿調整數		19,217		(3,267)		_		15,950	國外營運 務報表 兌換差	換算之	6
未實現重	重估增值		38,609		(38,609)		_		_	重估增值		
	益其他項目		57,826		(41,876)		_		15,950	權益其他計		
股東權	益合計		561,196		(1,961)				559,235	. 權益:	計	
負債及股東		\$	808,379	\$	(14)	\$	(372)	\$		負債及權		
	11	¥	,	*	(+1)	4	(3,2)	Ψ	,	/\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \		

2.民國 101 年 12 月 31 日個體資產負債表項目之調節

我國一般公認會計原則		轉換之	之影響	個體財		
項目	金額	認 列 及	表達差異	金額	項目	說明
流動資產					流動資產	
現金及約當現金	\$ 125,429	\$ -	\$	\$ 125,429	現金及約當現金	
應收票據淨額	4,235	_	_	4,235	應收票據淨額	
應收帳款淨額	139,312	_	_	139,312	應收帳款淨額	
應收帳款-關係人 淨額	408	_	_	408	應收帳款-關係 人淨額	
其他應收款	47,623	_	_	47,623	其他應收款	
存貨淨額	79,135	_	_	79,135	存貨淨額	
預付款項	13,803	_	_	13,803	預付款項	
遞延所得稅資產一 流動	786	_	(786)	_	遞延所得稅資產	4
流動資產合計	410,731		(786)	409,945	流動資產合計	
非流動資產					非流動資產	
固定資產淨額	201,703	_	(8,368)	193,335	不動產、廠房及設 備	1,2
無形資產	177	_	2,817	2,994	無形資產	2
採權益法之長 期 股權投資	248,086	(189)	(735)	247,162	採用權益法之投 資	10
遞延所得稅資產	_	27	854	881	遞延所得稅資產	4,5,6
預付設備款	_	_	10,274	10,274	預付設備款	1
存出保證金	2,585	_	_	2,585	存出保證金	
預付退休金-非流 動	-	301	_	301	預付退休金一非 流動	9
遞延費用	4,723		(4,723)		遞延費用	2
非流動資產合計	457,274	139	119	457,532	非流動資產合計	
資 產 總 計	\$ 868,005	\$ 139	\$ (667)	\$ 867,477	資 產 總 計	

我國一般公認會計原則				轉換之	影響			個體財	務報告會計準		
項	目	金	額	列 及	表達	差異	金	額	項	目	說明
流動負債									流動負債		
短期借款		\$	4,216	\$ _	\$	_	\$	4,216	短期借款		
應付票據			31,986	_		_		31,986	應付票據		
應付帳款			54,685			_		54,685	應付帳款		
應付帳款	一關係人		629	_		_		629	應付帳款 人	一關係	
應付所得	稅		3,240	_		_		3,240	當期所得	稅負債	
應付費用			25,085	_		(25,085)		_			2
其他應付	款		10,149	_		25,085		35,234	其他應付	款	2
預收款項			1,484	_		_		1,484	預收款項		
一年內到 賣回權	期或執行 公司債		94,501	_		_		94,501	一年內到 行賣回 債		
員工福利	負債準備		_	160		_		160	員工福利 備一流		8
其他流動	負債		294	_		_		294	其他流動	負債	
流動負債	合計		226,269	160		_		226,429	流動負債·	合計	
非流動負債									非流動負債		
遞延所得 非流動	稅負債-		12,227	3,790		68		16,085	遞延所得 一所得		5,6
土地增值	稅準備		24,200	_		_		24,200	遞延所得 一土地	稅負債 增值稅	7
遞延貸項 司間利			735	_		(735)		_			10
應計退休	金負債		6,348	(6,348)		_		_	應計退休	金負債	9
存入保證	金		1,598	_		_		1,598	存入保證	金	
非流動負	債合計		45,108	(2,558)		(667)		41,883	非流動負	債合計	
負 債	合 計		271,377	(2,398)		(667)		268,312	負債合計		
股 本									股本		
普通股股	本		273,561	_		_		273,561	普通股股	本	
資本公積			90,481	(3,241)				87,240	資本公積		3
保留盈餘									保留盈餘		
法定盈餘	公積		23,806	_		_		23,806	法定盈餘	公積	
特別盈餘	公積		_	38,609		_		38,609	特別盈餘	公積	
未分配盈	餘		154,528	 8,438				162,966	未分配盈	餘	11
保留盈餘	合計		178,334	47,047				225,381	保留盈餘合	計	
股東權益其	他項目								權益其他項	目	
累積換算	調整數		15,643	(2,660)		_		12,983	國外營運 務報表 兌換差	換算之	6
未實現重	估增值		38,609	(38,609)		_		_	重估增值		
股東權益 合計			54,252	 (41,269)				12,983	權益其他 計		
股東權益	益合計		596,628	2,537				599,165	· 權益合計		
	權益總計	\$	868,005	\$ 139	\$	(667)	\$	867,477	負債及權益	總計	

3.民國 101 年 1 月 1 日至 12 月 31 日個體綜合損益表項目之調節

我國	國一般公認*	會計原	則	轉換之	影響		個體財務	务報告會計準則	
項	目	金	額	認 列 及 衡量差異	表達差異	金	額	項目	說明
營業收入汽	爭額	\$	855,257	\$ -	\$ -	\$	855,257	營業收入淨額	
營業成本			(679,173)	_	_		(679,173)	營業成本	
調整前營	業毛利	-	176,084		_		176,084	營業毛利	
聯屬公司[利益	間未實現		(336)	_	_		(336)	未實現銷貨利益	
聯屬公司[利益	間已實現		31	_	_		31	已實現銷貨利益	
營業毛利			175,779		_		175,779	營業毛利淨額	
營業費用								營業費用	
推銷費用	用		(90,032)	_	_		(90,032)	推銷費用	
管理費用	用		(41,107)	511	_		(40,596)	管理費用	8,9
研究發展	展費用		(2,241)	_	_		(2,241)	研究發展費用	
合 訁	計		(133,380)	511	_		(132,869)		
營業利益			42,399	511	_		42,910	營業利益	
營業外收	入及支出							營業外收入及支出	
採權益注 之投	法認列 資利益		65,884	(50)	_		65,834	採權益法認列 之關聯企業 及合資損益 之份額	
			_	_	766		766	其他收入	12
			_	_	228		228	其他利益及損失	12
			_	_	(1,932)		(1,932)	財務成本	12
營業外收	入及利益								
利息收入	λ		482	_	(482)		_	其他收入	12
租金收入	λ		284	_	(284)		_	其他收入	12
處分固第 益	定資產利		71	_	(71)		_	其他利益及損失	12
其他收入	λ		4,745		(4,745)			其他利益及損失	12
合 訁	計		71,466	(50)	(6,520)		64,896		
營業外費用	用及損失								
利息費用	用		(1,932)	_	1,932		_	財務成本	12
金融資產失	產評價損		(160)	_	160		_	其他利益及損失	12
兌換損失	失		(1,920)	_	1,920		_	其他利益及損失	12
其他損失	失		(2,508)		2,508			其他利益及損失	12
合 訁	計		(6,520)		6,520				
稅前淨利			107,345	461			107,806	稅前淨利	
所得稅費用	用		(19,621)	(87)	_		(19,708)	所得稅費用	6
本期淨利		\$	87,724	\$ 374	\$ -		88,098	本期淨利	
							(3,574)	國外營運機構財務 報表換算之兌換 差額	
							4,237	確定福利計劃下之 精算利益	
							(113)	與其他綜合損益組 成部分相關之所 得稅	
							550	其他綜合損益合計	
						\$	88,648	綜合損益總額	
								**	

(三)轉換個體財務報告會計準則之調節說明

1.預付設備款之表達

依我國原一般公認會計原則下,購置設備之預付款項通常列 為固定資產項下之預付設備款。轉換至個體財務報告會計準 則後,購置設備之預付款通常列為其他資產項下之預付設備 款。

民國 101 年 1 月 1 日及 101 年 12 月 31 日,本公司預付設備款重分類至其他資產項下之預付設備款分別為 12,205 仟元及 10,274 仟元。

2. 遞延費用及應付費用之重分類

依我國原一般公認會計原則,遞延費用及應付費用分別帳列 其他資產及流動負債項下。轉換至個體財務報告會計準則後, 應將遞延費用依性質重分類至不動產、廠房及設備、無形資 產及預付費用,應付費用應重分類至其他應付款。

民國 101 年 1 月 1 日及 101 年 12 月 31 日,本公司遞延費用 重分類至上述會計項目之金額分別為 4,691 仟元及 4,723 仟元。

3.未按持股比例認購被投資公司增發新股及資本公積調整

依我國原一般公認會計原則規定,被投資公司增發新股而投資公司未按持股比例認購,致投資比例發生變動,而使投資公司所投資之股權淨值發生增減者,其增減數應調整「資本公積一長期股權投資」及「長期股權投資」。轉換至個體財務報告會計準則後,對關聯企業之所有權權益變動而未喪失重大影響者,係視為推定取得或處分關聯企業部分股權;對子公司之所有權權益變動而未喪失控制者,應視為權益交易。

本公司依台灣證券交易所發布之「我國採用 IFRSs 問答集」

規定,應將資本公積-長期股權投資轉列保留盈餘。民國 101 年1月1日及101年12月31日,本公司資本公積-因長期 股權投資而發生調整增加未分配盈餘為3,241仟元。

4.遞延所得稅之分類及備抵評價科目

依我國原一般公認會計原則之規定,遞延所得稅資產及負債 依其相關資產或負債之分類劃分為流動或非流動項目,無相 關之資產或負債者,依預期迴轉期間之長短劃分為流動或非 流動項目。轉換至個體財務報告會計準則後,依國際會計準 則第 1 號「財務報表之表達」之規定,遞延所得稅資產及負 債一律分類為非流動項目。

另依我國原一般公認會計原則之規定,遞延所得稅資產於評估其可實現性後,認列相關備抵評價金額。轉換至個體財務報告會計準則後,依國際會計準則第12號「所得稅」之規定,僅當所得稅利益「很有可能」實現時始認列為遞延所得稅資產,故不再使用備抵評價科目。

截至民國 101 年 1 月 1 日及 101 年 12 月 31 日止本公司遞延 所得稅資產重分類至非流動資產之金額分別為 822 仟元及 786 仟元。

5.遞延所得稅資產及負債之互抵

依我國原一般公認會計原則之規定,同一納稅主體之流動遞延 所得稅負債及資產應互相抵銷,僅列示其淨額;非流動之遞延 所得稅負債及資產亦同。

轉換至個體財務報告會計準則後,企業有法定執行權利將當期所得稅資產及負債互抵,且遞延所得稅資產及負債與由同一稅捐機關課徵所得稅之同一納稅主體(或不同納稅主體,但各主

體意圖在重大金額之遞延所得稅負債或資產預期清償或回收 之每一未來期間,將當期所得稅負債及資產以淨額為基礎清償, 或同時實現資產及清償負債)有關者,始應將遞延所得稅資產 及負債互抵。

截至民國 101 年 1 月 1 日及 101 年 12 月 31 日止,本公司已將 互抵之遞延所得稅負債重分類至遞延所得稅資產之金額分別 為 129 仟元及 68 仟元。

6.其他所得稅調整事項

截至民國 101 年 1 月 1 日及 101 年 12 月 31 日止,本公司評估轉換至個體財務報告會計準則各會計原則差異影響數之遞延所得稅資產可實現性,遞延所得稅資產分別調整增加 125 仟元及 27 仟元,遞延所得稅負債分別調整增加 3,688 仟元及 3,790 仟元 未分配盈餘分別調整減少 296 仟元及 1,103 仟元,累積換算調整數分別調整減少 3,267 仟元及 2,660 仟元。另民國 101 年 1 月 1 日至 12 月 31 日所得稅費用調整增加 87 仟元。

7.土地增值稅準備

依修訂前之證券發行人財務報告編製準則,土地因重估增值相關之土地增值稅單獨列為土地增值稅準備;轉換至個體財務報告會計準則後,本公司依照國際財務報導準則第1號「首次採用國際財務報導準則」選擇於首次採用個體財務報告會計準則時使用土地重估後帳面金額作為認定成本者,相關土地增值稅準備應重分類為遞延所得稅負債。民國101年1月1日及101年12月31日皆重分類24,200仟元。

8.短期帶薪假之估列

依我國原一般公認會計原則,並無短期帶薪假相關規定,實 務係以員工休假時予以估列。轉換至個體財務報告會計準則 後,應依員工既得權益估列短期帶薪假之員工福利準備。

民國 101 年 1 月 1 日及 101 年 12 月 31 日本公司員工福利負債準備金額分別調整增加 738 仟元及 160 仟元,未分配盈餘分別調整減少 738 仟元及 160 仟元。另民國 101 年 1 月 1 日至 12 月 31 日營業費用調整減少 578 仟元。

9.確定福利退休金計畫之精算損益

依我國原一般公認會計原則,精算損益係採用緩衝區法按可 獲得退休金給付在職員工之平均剩餘服務年限攤銷認列於 損益項下。轉換至個體財務報告會計準則後,選擇確定福利 計畫下之精算損益立即認列於其他綜合損益項下,於權益變 動表認列入保留盈餘,後續期間不予重分類至損益。

依我國原一般公認會計原則,首次適用財務會計準則公報第十八號「退休金會計處理準則」所產生之未認列過渡性淨給付義務應按預期可獲得退休金給付在職員工之平均剩餘服務年限,採直線法加以攤銷並列入淨退休金成本。轉換至個體財務報告會計準則後,由於不適用國際會計準則第 19 號「員工福利」之過渡規定,未認列過渡性淨給付義務相關影響數應一次認列並調整保留盈餘。

依我國原一般公認會計原則,最低退休金負債是在資產負債 表上應認列退休金負債之下限,若帳列之應計退休金負債低 於此下限金額,則應將不足部分補列。轉換至個體財務報告 會計準則後,無最低退休金負債之規定。 民國 101 年 1 月 1 日及 101 年 12 月 31 日,本公司因依國際 會計準則第 19 號「員工福利」之規定重新精算確定福利計畫,並依國際財務報導準則第 1 號「首次採用國際財務報導準則」規定,分別調整減少應計退休金負債 2,479 仟元及 6,348 仟元,另民國 101 年 12 月 31 日調整增加預付退休金 301 仟元,此外,民國 101 年 1 月 1 日至 12 月 31 日退休金成本調整增加 67 仟元。

10.子公司轉換個體財務報告會計準則之影響

本公司之子公司一Fu Burg Industrial (Thailand) Co., Ltd., 依國際會計準則第 19 號「員工福利」之規定重新精算確定福利計畫,並依國際財務報導準則第 1 號規定將差額於轉換日直接認列於保留盈餘中。故本公司認列相關之影響數及致民國101 年 1 月 1 日及 101 年 12 月 31 日採用權益法之投資分別減少 139 仟元及 189 仟元。另民國 101 年 1 月 1 日至 12 月31 日採用權益法認列之子公司利益之份額調減 50 仟元。

依我國原一般公認會計原則,投資者與子公司間之順流交易 應予以消除,並認列遞延貸項一聯屬公司間利益。轉換至個 體財務報告會計準則後,投資者與子公司間之順流交易所產 生之損益,僅在與投資者對子公司權益無關之範圍內,認列 於投資者之財務報表。

民國 101 年 1 月 1 日及 101 年 12 月 31 日本公司遞延貸項一聯屬公司間利益重分類至採用權益法之投資之金額分別為501 仟元及 735 仟元。

11.權益之調節

	說明	101年12月31日		101	年1月1日
我國一般公認會計原則下之權益 調整項目:		\$	596,628	\$	561,196
確定福利計畫之調整			6,649		2,479
員工短期帶薪假調整			(160)		(738)
採用權益法之投資調整			(189)		(139)
轉換影響數遞延所得稅調整			(1,103)		(296)
累積換算調整數			(2,660)		(3,267)
個體財務報告會計準則下之權益		\$	599,165	\$	559,235

12.個體綜合損益表之調節說明

本公司原依我國修正前證券發行人財務報告編製準則編製之損益表。轉換至個體財務報告會計準則後,本公司依性質將利息收入及租金收入重分類至其他收入項下,金融資產評價損益、處分固定資產損益、外幣兌換損益、什項收入、其他損失重分類至其他利益及損失項下,利息費用重分類至財務成本項下。

轉換至個體財務報告會計準則後,本公司民國 101 年 1 月 1 日至 12 月 31 日利息收入 482 仟元及租金收入 284 仟元重分類至其他收入項下,什項收入 4,745 仟元、處分固定資產利益 71 仟元、兌換損失 1,920 仟元、金融資產評價損失 160 仟元及其他損失 2,508 仟元重分類至其他利益及損失項下,利息費用 1,932 仟元重分類至財務成本項下。

(四)民國 101 年度現金流量表重大調整說明

本公司依我國先前一般公認會計原則按間接法編製之現金流量表,係將利息收現數、利息支付數及所得稅支付數作為營業活動之現金流量,且未被要求單獨揭露利息收現數、利息支付數與所得稅支付數。惟依國際會計準則第7號「現金流量表」之規定,利息收現數、利息支付數與股利收現數應單獨揭露並各期一致之方式分類為營業、投資及籌資活動,本公司民國101年度利息收現數482仟元、利息支付數1仟元及所得稅支付數10,359仟元應單獨揭露。

除上述差異外,依個體財務報告會計準則編製之個體現金流量表與依我國先前一般公認會計原則所編製者,並無其他重大差異。

(五)轉換日提列之特別盈餘公積

依金管會 101 年 4 月 6 日發布之金管證發字第 1010012865 號函令規定,首次採用 IFRSs 時,應就帳列權益項下之未實現重估增值及累積換算調整數(利益),因選擇適用國際財務報導準則第 1 號豁免項目而轉入保留盈餘部分應提列相同數額之特別盈餘公積請參閱財務報表附註六(十五)、4。

富堡工業股份有限公司 為他人背書保證 民國 102 年 1 月 1 日至 12 月 31 日

附表一

單位: 除另與註明者外, 為新台幣仟元

編號(註1)	背書保證者 公司名稱	背書保證對公司名稱	象 關係 (註 2)	對單一企業 背書保證 限 額 (註 3)		期末背書 保證餘額 (註5)		以財產擔保 之背書保證 金 額	累計背書保證 金額佔最近期 財務報表淨值 之比率	背書保證 最高限額 (註 3)	屬母司 對子司 背書證 (註 7)		屬對大陸 地區背書 保證 (註 7)	備註
0		富安德堡投資有限 公司	2	\$ 708,073	\$ 30,000	\$ 30,000	\$ 30,000	\$ -	4.24%	\$ 708,073	Y	_		背書保證總額及對 單一企業背書保證
		Fu Burg Industrial (Thailand) Co., Ltd.	2	708,073	205,165	204,246	28,159	_	28.85%	708,073	Y	_		限額以權益淨值一 倍為限,本期最高限 額為 708,073 仟元。

- 註 1: 編號欄之說明如下:
 - 1. 發行人填 0。
 - 2.被投資公司按公司別由阿拉伯數字1開始依序編號。
- 註 2: 背書保證者與被背書保證對象之關係有下列六種,標示種類即可:
 - 1.有業務關係之公司。
 - 2.直接持有普通股股權超過百分之五十之子公司。
 - 3.母公司與子公司持有普通股股權個體計算超過百分之五十之被投資公司。
 - 4.對於直接或經由子公司間接持有普通股股權超過百分之五十之母公司。
 - 5.基於承攬工程需要之同業間依合約規定互保之公司。
 - 6.因共同投資關係由各出資股東依其持股比例對其背書保證之公司。
- 註 3: 應填列公司依為他人背書保證作業程序,所訂定對個別對象背書保證之限額及背書保證最高限額,並於備註欄說明背書保證個別對象及總限額之計算方法。
- 註 4: 當年度為他人背書保證之最高餘額。
- 註 5: 截至年底舉凡公司向銀行簽具背書保證契約或票據之額度獲准時,即承擔背書或保證責任,另其他相關有背書保證情事者,皆應入計背書保證餘額中。
- 註 6: 應輸入被背書保證公司於使用背書保證餘額範圍內之實際動支金額。
- 註 7: 屬上市櫃母公司對子公司背書保證者、屬子公司對上市櫃母公司背書保證者、屬大陸地區背書證者始須填列 Y。

富堡工業股份有限公司 期末持有有價證券情形(不包含投資子公司部分) 民國 102 年 12 月 31 日

附表二

單位: 除另與註明者外, 為新台幣仟元

	有價證券種類及名稱有價證券發行人				期	末				
持有之公司	有頂起夯性類及名牌 (註 1)	與本公司之關係 (註 2)	帳列科目	股 數	帳 面 金 額 (註 3)	持股比例	公允價值	借註 (註 4)		
富安德堡投資 有限公司	國票金融控股(股)(2889)	_	交易目的金融資產	27,893	\$ 278	_	\$ 278			
	聯合光纖通信(股)(4903)	_	交易目的金融資產	1,887,000	21,512	_	21,512			
	正新橡膠工業(股)(2105)	_	交易目的金融資產	90,000	7,020	_	7,020			
	宏盛建設(股)(2534)	_	交易目的金融資產	17,000	412	_	412			
	和大工業(股)(1536)	_	交易目的金融資產	10,519	484	_	484			
	鑫創科技(股)(3259)	_	交易目的金融資產	10,000	440	_	440			
	安碩富時A50中國指數ETF	_	交易目的金融資產	20,000	717	_	717			
	Aberdeen Liquidity(Lux)USDA2 Acc	_	交易目的金融資產	9.781	884	_	884			
	Amundi Funds Equity Greater China AU C USD	_	交易目的金融資產	82.297	1,379	_	1,379			
	BlackRock GF World Energy A2 USD	_	交易目的金融資產	371.606	272	_	272			
	JPM ASEAN Equity A Acc USD	_	交易目的金融資產	1340.129	729	_	729			
	JPM Global Natural Resources A Acc USD	_	交易目的金融資產	829.337	268	_	268			

- 註 1: 本表所稱有價證券,係指屬國際會計準則第 39 號「金融工具:認列與衡量」範圍內之股票、債券、受益憑證及上述項目所衍生之有價證券。
- 註 2: 有價證券發行人非屬關係人者,該欄免填。
- 註 3: 按公允價值衡量者,帳面金額乙欄請填公允價值評價調整後及扣除累計減損之帳面餘額;非屬按公允價值衡量者,帳面金額乙欄請填原始取得成本或攤銷後成本扣除累計減損之帳面餘額。
- 註 4: 所列有價證券有因提供擔保、質押借款或其他依約定而受限制使用者,應於備註欄註明提供擔保或質借股數、擔保或質借金額及限制使用情形。

富堡工業股份有限公司

被投資公司資訊、所在地區...等相關資訊(不包含大陸被投資公司)

民國 102 年 1 月 1 日至 12 月 31 日

附表三

單位: 除另與註明者外, 為新台幣仟元

	被投資公司名稱			原始投	資金額	期	末	持有	被投資公司	本期認列之	
投資公司名稱	(註 1、2)	所在地區	主要營業項目	本期期末	去年年底	股 數	比率	帳面金額	本期損益 (註 2(2))	投資損益 (註 2(3))	備註
	Fu Burg International Holding Company (U.S.A.)	美國	一般投資業務	\$ 10,123	\$ 10,123	7	100	\$ 171,498	\$ 53,791	\$ 53,791	子公司
` ′	Fu Burg Industrial (Thailand) Co., Ltd.	泰國	紙尿褲之製造 及銷售	129,915	129,915	16,344,997	70	121,530	7,689	5,631	子公司
富堡工業(股)公司	富安德堡投資有限公司	台灣	一般投資業務	20,000	20,000	_	100	13,164	(2,046)	(2,046)	子公司
Fu Burg International Holding Company (U.S.A.)	An An Global Co., Ltd.	塞席爾	一般投資業務	6,484	6,484	213,000	100	170,096	53,848	_	孫公司
Fu Burg International Holding Company (U.S.A.)	Day Earn Global Co., Ltd	薩摩亞	一般投資業務	202	202	7,000	100	60	(26)	_	孫公司

- 註 1: 公開發行公司如設有國外控股公司且依當地法令規定以個體報表為主要財務報表者,有關國外被投資公司資訊之揭露,得僅揭露至該控股公司之相關資訊。
- 註 2: 非屬註 1 所述情形者,依下列規定填寫:
 - (1)「被投資公司名稱」、「所在地區」、「主要營業項目」「原始投資金額」及「期末持股情形」等欄,應依本(公開發行)公司轉投資情形及每一直接或間接控制之被投資公司再轉投資情形依序填寫,並於備註欄註明各被投資公司與本(公開發行)公司之關係(如係屬子公司或孫公司)。
 - (2)「被投資公司本期損益」乙欄,應填寫各被投資公司之本期損益金額。
 - (3)「本期認列之投資損益」乙欄,僅須填寫本(公開發行)公司認列直接轉投資之各子公司及採權益法評價之各被投資公司之損益金額,餘得免填。於填寫「認列 直接轉投資之各子公司本期損益金額」時,應確認各子公司本期損益金額業已包含其再轉投資依規定應認列之投資損益。

富堡工業股份有限公司 大陸投資資訊

民國 102 年 1 月 1 日至 12 月 31 日

附表四

單位: 除另與註明者外, 為新台幣仟元

大陸被投資 公司名稱	主要營業項目	實收資本額	以貝刀八	本期期初自 台灣匯出累	投	資	出或收回 金 額	台灣匯出累	被投資公司 本期損益	本公司直接或間接投資	投資損益	期末投資 帳面價值	截至本期止 己匯回	備註
			(HIL)	積投資金額	滙	出	收 回	積投資金額		之持股比例	(註二)		投資收益	
上海富安德堡 貿易有限公司	紙製品等銷售		透過第三地區公司 An An Global Co., Ltd.再投資 大陸公司	\$ 6,075	\$	_	\$ -	\$ 6,075	\$ 53,877	100%	\$ 53,877 (2)	\$ 170,031	\$ —	

本期期末累計自台灣匯出赴 大陸地區投資金額	經 核		部 投 資	審金	會額	依 赴	經大	濟 陸	部 地	投 區	審 投	會資	規 限	定額
\$6,075 (USD200,000)		U	SD200,000	0		資或 工業	技術台	合作審 發符合	查原則 營運總	亅亅規定	多定「在 生,因本 重範圍	公司耳	仅得經:	齊部

- 註一: 投資方式區分為下列三種, 標示種類別即可:
 - (1) 直接赴大陸地區從事投資。
 - (2) 透過第三地區公司再投資大陸(請註明該第三地區之投資公司)。
 - (3) 其他方式。
- 註二: 本期認列投資損益欄中:
 - 1.若屬籌備中,尚無投資損益者,應予註明
 - 2.投資損益認列基礎分為下列三種,應予註明
 - (1)經與中華民國會計師事務所有合作關係之國際性會計師事務所查核簽證之財務報表
 - (2)經台灣母公司簽證會計師查核簽證之財務報表
 - (3)其他。
- 註三: 本表相關數字應以新臺幣列示。

§重要會計科目明細表目錄§

項	目	編號/索引
資產、負債及權益項目明細	l表	
現金及約當現金明細表		明細表 1
應收票據明細表		明細表 2
應收帳款明細表		明細表 3
存貨明細表		明細表 4
採用權益法之投資變動明	細表	明細表 5
不動產、廠房及設備變動	明細表	附註六(六)
不動產、廠房及設備累計	折舊變動明細表	附註六(七)
無形資產變動明細表		附註六(八)
遞延所得稅資產明細表		附註六(廿一)
短期借款明細表		明細表 6
應付帳款明細表		明細表 7
其他應付款明細表		附註六(十一)
負債準備—流動明細表		附註六(十二)
遞延所得稅負債明細表		附註六(廿一)
損益項目明細表		
營業收入明細表		明細表 8
營業成本明細表		明細表 9
製造費用明細表		明細表 10
推銷費用明細表		明細表 11
管理費用明細表		明細表 12
研究發展費用明細表		明細表 13
本期發生之員工福利、排 別彙總表	「舊、折耗及攤銷費用功能	附註六(廿二)

<u>現金及約當現金明細表</u> 民國 102 年 12 月 31 日

明細表 1

		I			'УJ МЦ 4X 1
項	目	摘	要	金	額
庫存現金				\$	179
銀行活期存款					50,265
銀行定期存款		到期日: 103/1/	/18 利率 0.65%		10,000
銀行定期存款		到期日: 103/1/	/25 利率 0.89%		7,000
銀行支票存款					895
外幣存款		美元: USD	2,363,124.47		70,444
		日圓: JPY	2,008,890		2,010
		歐元: EUR	969.77		40
		人民幣: CNY	19,000		94
合	計			\$	140,927

註: 外幣存款於民國 102 年 12 月 31 日之即期匯率如下:

美元: 台幣=1: 29.81

日圓: 台幣=1: 0.28

歐元: 台幣=1: 41.09

人民幣: 台幣=1: 4.92

應 收 票 據 明 細 表 民國 102 年 12 月 31 日

明細表 2

	1		77 MI 12 Z
客戶名稱	金	額	備註
非關係人:			
A 公司	\$	1,144	
B 公司		517	
C 公司		265	
D 公司		176	
E 公司		161	
其 他		394	各客戶餘額未超過 本科目金額5%
小 計		2,657	
減: 備抵呆帳			
淨額	\$	2,657	

應 收 帳 款 明 細 表 民國 102 年 12 月 31 日

明細表3

客戶名稱	金	額	備註
非關係人:			
A 公司	\$	34,336	
B 公司		16,286	
C 公司		9,677	
D 公司		8,163	
E 公司		5,987	
其 他		38,826	各客戶餘額未超過 本科目金額 5%
小 計		113,275	
關係人:			
泰國富堡		135	
合 計		113,410	
減: 備抵呆帳		(593)	
淨額	\$	112,817	

<u>存貨明細表</u> 民國 102 年 12 月 31 日

明細表 4

								-D1 W	不 4
項	皿	摘	要	金		額		備	註
				成	本	淨夠	夢現價值	THI	FL.
製成品	1			\$	34,329	\$	40,439		
原	料				27,915		28,127		
物	料				1,807		1,805		
商	品				16,686		21,719		
合	計				80,737	\$	92,090		
減: 傃 万	情抵存貨跌價 及呆滯損失				(1,909)				
淨	額			\$	78,828				